

\* 特集

## 出版文化の発信

インタビュー

津軽から、大志を抱いて

弘前大学・遠藤正彦学長に聞く 2

「本の学校」について語ろう 永井伸和 11

私たちはここで本を出し続ける

「被災地」からの挑戦 土方正志 16

未来の主人公のために、本はつくられる

せんだいメディアアテックでの出版を通じて 小川直人 20

\* 連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

生活社刊「日本叢書」 酒井道夫 表2

大学出版部ニュース 25

大学と社会を結ぶ  
知のネットワーク

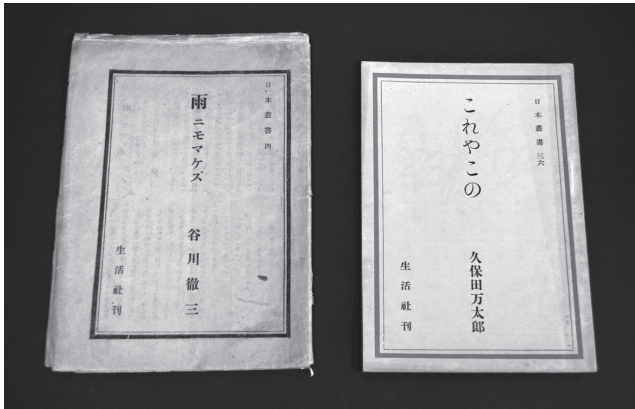
# 大学出版



一般社団法人  
大学出版部協会

THE  
ASSOCIATION  
OF  
JAPANESE  
UNIVERSITY  
PRESSES

NO. 87  
2011.8  
\*夏



右が終戦後の別丁二色刷りの表紙付き。単純ながら印象に残るデザイン。  
左が戦中刊行の単色刷り版。用紙を畳んだだけで、断裁すらなされていない。

終戦間際、我家は家財道具の一切を戦火で失った。当然、父親の蔵書も例外ではない。そのお陰で、戦後父の郷里に隣接する町で始まったささやかな間借り生活も実にあつげらんとしたもので、最低限の鍋釜と食器、あとは着の身着のままだから、八畳一間だけでも当面は家族四人の寝起きに足りていた。長男の私は小学一年生だった。

この八畳の間にとどき親父が持ち帰ってきたのが、B6判三二ページじかなる小冊子の「日本叢書」（一九四五年四月創刊）。この本の簡素な意匠から受けた強い印象が、今でも眼底に焼き付いている。中央に書名と著者名があつて、その右肩に叢書名と巻数。左下端に「生活社刊」とあるだけで、その周りを朱刷りで極太子持罝が囲む単純明快な意匠。無論、デザインの善し悪しが幼心に評価できる訳もなく、ページを捲れば「字ばかり」で子供の手に負える代物ではない。後年になると、年相応に興味を惹く書物に不足を感じなくなつたことも手伝つて、これを手に取る機会がなかつた。

父はすでに彼岸に赴き、私も老境に至つた今、これらが十数冊残されていたことに気付いた。終戦を目前にしての刊行開始。むしろ戦後になってから夥しく巻を重ねたものらしい。極めて短期間に社会状況が劇的に様変わりする中、著者も読者も版元もすっかり翻弄されただろう空気がひしひしと伝わつてきて、今改めて読むと身につまされる。

で、今更ながら、刊行当初の表紙が単色刷りだったことに気付いた。表紙は本文と共に紙、これを含めて三二ページ。用紙一枚を畳んだだけで綴じてもない。ナイフでページを切り開いて繙読する。正に非常事態下での極限的刊行物だったことがわかる。終戦を境に、別丁二色刷の表紙を補い、本文のために三二ページを確保して刊行を続けたものらしい。第九七巻『野村万蔵聞書』（古川久）が出たのが一九四六年秋だから、怒濤の刊行状況だったと言える。「生活社」なる幻の（巨大？）出版社についてもっと知りたい。

特  
集

出版文化の発信

## 津軽から、大志を抱いて——弘前大学・遠藤正彦学長に聞く

【解説】 遠藤正彦氏は、一九三六年生まれ、弘前大学医学部教授・医学部長を経て、二〇〇二年より学長を務める。複合糖質の生化学、特に糖鎖工学を専攻する医学研究者として、さらに医学部長・学長としてながく活躍されてきたが、大学出版部との関わりで強調すべきは、二〇〇四年の弘前大学出版会設立を強力に推し進めたこと

### 弘前大学出版会誕生まで

——なぜ出版会を設立されたのか、まずは経緯を含めてお聞かせください。

私が学長になった当時、国立大学の法人化が迫っていました。当時の遠山文部科学大臣が打ち出した三つの重要な柱のなかのひとつに、大学の統廃合があるわけです。私が学長になる前から北東北の三大学はさまざまな連携を図っ

だろう。国立大学法人化後の厳しい財政状況のなか、大学出版会を設立し学術書の刊行を続けることの意義と課題について、設立を主導した学長自身が語る話からは貴重な示唆を得られると思われる。読者の皆様の参考になれば幸いである。

（聞き手・構成 東京大学出版会・山田秀樹）

ていましたが、そのなかで他大学と比べると、弘前大学は長いあいだ「ぬるま湯」に浸かっていたと感じるときがありました。また、一方では学部間の格差が大きいという問題も抱えており、このままではだめだと思っていました。

私自身は出版事業に関わったことはありませんが、私の出身高校には出版クラブがあり、新聞などをつくっている仲間がいたのです。その隣の部屋で私は生徒会活動を行っていたのですが、いつも彼らと話をしていたので、そのころから興味はありました。

学長になり、弘前大学の行く末を案じるなかで出版事業を思い立ったのは、学長室にいっぱい届く教員の科学研究費報告書です。私も以前はたくさんつくりました。ただ、理系の場合は論文としていずれジャーナルなどに投稿されますが、文系の方の報告書はどうだろうか。分厚いものが積み上げられている様子を見ているなかで、学長の立場の私はみなさんの業績を見るチャンスはあるものの、それが公表される場がないのもつたない話だと、ふと思ったのです。

もうひとつ、私は医学部長時代に教員任期制を導入し、他学部には先駆けて全教員対象に任期制としました。教員の再任にあたっては業績をすべて公開したのですが、その仕組みに他学部は大反対でした。そして学長になってみると、理系教員の業績はそれなりにあるとしても、文系教員の業績というものがよく分からない。文系教員が任期制に反対の理由としては、「研究というのは時間が掛かるんだ」「一生掛けてコツコツやるものだ」

「研究成果はその後にまとめるんだ」「年ごとの評価はあり得ない」というものでしたが、では退官の頃に研究を集大成し広く世に問うかという、必ずしもそうではない。ですから、文系の先生方の「業績」というものをしっかり公に発表すべきだという思いはありました。その一方で学長室には報告書が積み上げられているわけですから、これこそ「本」にしてはつきりとした業績にする必要があると思つたことが、きっかけです。

大学の将来に対する危機感が、大きなきっかけになつたということでしょうか。

はい。国立大学法人化に直面していた頃、このままでは弘前大学はだめだという思いがあり、大学の研究力を上げるための「緊急戦略会議」を開くなかで私が設立を提案したので。理系には分析センターなどさまざまな設備やプロジェクトがありますが、文系教員の研究力を上げるため

## ああ認知症

### 家族

「つなれば、  
希望が見えてくる」

高見国生

認知症の人を家族にもつ絶望的な辛さは、家族同士の交流と絆で乗り越えられるのでは？ 30年の体験を基に描く、希望への道筋。B6判・定価1575円

## 古代王権論

—神話・歴史感覚・ジェンダー—

義江明子

系譜・神話・王権・女帝の四つの切り口から古代における「歴史感覚」の特質を解明し、私たちの「古代認識」を根底から問います。

四六判・定価3255円

## 大坂城の男たち

—近世実録が描く英雄像—

高橋圭一

近世の難波戦記物に描かれた真田幸村や後藤基次の活躍など、今日の時代小説の原点ともなった英雄像と逸話の数々を、平易に叙述する。

四六判・定価3150円

## 柳田国男と梅棹忠夫

—自前の学問を求めて—

伊藤幹治

西洋の学問に頼らず、自分の目で見、耳で聞き、身体で感じ、自分の頭で思考する。二人の知のスタイルから今日の学問状況を考える。

四六判・定価2730円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋  
[定価は消費税5%込み]

<http://www.iwanami.co.jp/>



には図書館の充実と出版会の設立が鍵になると思ったので  
す。

ところが出版会設立を提案したところ、「出版会がこの  
地方大学で持てるのか」など、ほとんどの出席者は反対で  
した。でも、ともかく設立について意見を聞いてみようとい  
うことでアンケートを実施したので。賛成は三分の一  
もなかったのですが、反対の理由として「地方の大学では  
もたないだろう」「お金が掛かる」「誰が経営するのか」「ス  
タッフをどうするか」「組織の位置付けがきちんとできる  
のか」など挙げられました。しかし私としては、とにかく  
大学がお金を注ぎ込んでも、出版会を通して研究成果を公  
に発表していくべきだと考えていました。

その後も設立に反対の雰囲気は強かったのですが、最初  
のアンケートから数カ月経ち二回目のアンケートを行った  
ところ、少し賛成が増えました。そこで、みんなの意見に

引きずられては何も進みませんので、ともかく会議で強引  
に決定したのです。そのうえで出版会の経営をどうするの  
か、人材をどうするのか考えていた最中、学長会議に参加  
して大学法人とはどのようなものか議論していたときに、  
「法人になった以上、出版会は大学のなかにあってもいい  
のではないかと、ハッと気付いたのです。そこで財務担  
当者に、出版会の設立・運営という旧国立大学ではあり得  
ないことは、法人化したらできるのだろうか相談したとこ  
ろ、文科省に照会してくれました。文科省からの返事は「何  
も問題ありませんよ」ということでした。『これだ!』と  
思いましたね。

そこで先生方に「これは大学が責任を持ってやろう、出  
版経費の負担は出版会が軌道に乗るまでは大学が持とうで  
はないか、出版のノウハウを身に付けて離陸できるように  
なるまでは大学が支援しようではないか」と話しました。  
理系の先生方を中心に積極的な動きも出て、熱意ある教員  
の真下正夫先生を副学長が引っ張ってきてくれました。と  
にかくやろうということになったのです。

そのようなことで走り出したのですが、編集長の真下先  
生や編集委員の先生方が本当に一生懸命にやってくれまし  
た。出版会の具体的なあり方についてながいあいだ議論さ  
れたと聞いていますし、いろいろなところへ調査に出掛け  
るなど非常に勉強してくれました。

——大学のなかに出版会をつくるという発想が、遠藤学長のひらめきによるものというのは、のちに同じ形態の大学出版部が出てくることを鑑みますと、大きな「発明」のように思います。一方で設立に至るまでに一番苦労されたことは何でしょうか。

設立の同意を得ることはもちろん大変でしたが、設立するとすれば、次はどのような本を出版できるのかという問題が待ち受けていました。「研究報告書はあるのだから出版しましょう」と言っても、簡単ではありません。どのような本を、どのように出版するのか、そしてクオリティを上げるにはどうすれば良いのか、という基本的な点において、層の薄さを痛感させられました。編集委員の先生方も随分苦労されたと思います。

この点は、新しく始まるほかの大学出版部も抱える悩みだと思えます。法人化後にいち早く出版会を立ち上げたこともあり、他大学から設立について話を聞かせてほしいと

## メカスの難民日記

メカス 反ナチ活動が発覚しリトアニア出国、戦後はドイツの難民収容所を巡り米国へ。映画作家の原点。飯村昭子訳 ¥5040

## メタフィジカル・クラブ

メナンド プラグマティズムの成立史として描くアメリカ百年の精神史。ピューリッツァ賞受賞。野口・那須・石井訳 [予約] ¥6300

## レヴィ=ストロース 夜と音楽

今福龍太 『悲しき熱帯』『神話論理』を導きの糸に、レヴィ=ストロースの思考の核心を鮮やかに響かせる創造的入門書。¥2940

## あたらしい美学をつくる

秋庭史典 世界を情報の流れとしてとらえるとき、美はどこに位置づけられるのか。感性から計算の美学への扉を開く。¥2940

## 自然倫理学

ひとつの見取図

クレプス 自然と人間の幸福との関係とは。自然の内在的価値から道徳的拡張理論へ。《エコロジーの思想》加藤・高畑訳 ¥3570

## 20世紀ユダヤ思想家<sup>2</sup>

来るべきものの証人たち

ブルーレッツ 哲学と宗教の間の知的葛藤を全3巻に詳細に再構成。本巻ショーレム、プーバー、ブロッホ。合田正人他訳 ¥7140

## 客観性の刃

科学思想の歴史 [新版]

ギリスピー 科学者の創造活動に焦点をあて、透徹した分析で近代科学の歩みをたどる科学史研究の古典。島尾永康訳 ¥6930

東京文京本郷 **みすず書房**

5丁目32-21

tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)

http://www.mszz.co.jp

いうリクエストもあるのですが、そのなかでは「出版が継続的にできるのか」という質問がいくつもありましたね。私としては、弘前大学は理工・農・医・人文・教育に加え、日本で一番大きな保健学科もありますから、これだけの分野と教員が整っていれば出版のチャンスを活かしてくれると期待しましたし、出版をひとつの目標として研究に励みませんか」という思いでした。

加えて、出来上がった本をどう売るかという問題もありました。大学出版の本とは自分の研究をまとめ公表する場であると位置付けていたので、売ることについてはまったく考えていなかったのです(笑)。「研究報告書」では広く眼に触れられる機会は限られていますが、ISBNコードを付けて出版し配れば、みなさんに見ていただき研究も活性化するのではないかと、という程度の考えでした。ですから、のちほど真下先生に「これを流通させ販売するにはどうするんだ」と聞かれたときには、これは大変なハードルだと困りました(笑)。それはいまでも尾を引いていま



すけど（笑）。

## 設立記念作『津軽の華』

——そして設立第一作目として、ねぶた祭りで使用された絵を写真集にした『津軽の華』——弘前大学所蔵ねぶた絵全作品』が刊行されます。この本は、どのようにしてできたのでしょうか。

ねぶたというのは弘前のお祭りです。出版会がスタートした二〇〇四年は大学がねぶた祭りに参加してからちょうど四十年目にあたりましたが、それまで大学としてねぶたを出すことを大学は公式には認めず、有志の職員が集まって毎年参加していました。職員を中心に参加していることに対し、大学そのものはあまり理解がなかったのです。ただ、祭りの後も実際に使ったねぶた絵は学内に保存していました。

ねぶた絵は祭りの最終日に岩木川に流すのが正式なやり方です。ところが弘前大学が最初に祭りに参加しようというとき、ねぶた絵師が弘前大学のために作ることに、ウウン、とは言いませんでした。そこで「ねぶた絵は川に流さず残しますから、ぜひ描いてください！」とお願いしたところ、なんと「じゃあ、描きます」と引き受けてくれたのです。つまり絵師自身、丹精込めて描いたねぶた絵が流されることに耐えられない思いがあったと思うのです。そのような

わけで、「残します」と言った絵は有志たちがずっと図書館に保存してきました。その四十年目ですから、私は、この四十年目をお祝いするとともに、そのことで大学内に公式に位置付けようと考えました。

通常、ねぶた絵は毎年川に流してなくなりますから、どこにも残っていないわけです。弘前市の博物館に少しあるだけです。弘前大学は四十年分全部あるのです。世間に広く知っていただくとともに、後世に伝えるためにもこれを第一作目にしようというのは、私の思いつきによるものでした。

この出版と同時に、大学にあるねぶた絵を全部出して一般公開し、絵師を招いてシンポジウムを開きました。そうしたところみなさんがまず驚いたのは、昔の有名な竹森節堂から現在の最高峰八嶋龍仙まで、名絵師のねぶた絵が残っていることです。しかもそれが本になったということ。反響を呼び、地元ではベストセラーになり増刷もしました。

現在では、図書館が永久保存できる仕組みをつくりました。ですから、多くの反響を得たこと、出版がきっかけでねぶた祭りが大学の行事となり、職員も学生も堂々と参加できるようになったことなど、弘前大学出版会がこの本を出したことの成果はありました。昔は、ねぶたを出すのに上司に怒られながらコソコソ続けてきたのですが、いまは大学がねぶた用の作業場をつくったりもしています。公式に認知されたことの功績も大きいのです。



——出版を通して地域のアイデンティティが再確認され、大学と地域が結びつく役割を『津軽の華』が果たしたということですね。

『津軽の華』出版をきっかけに、ものすごく素晴らしいことが派生的に起こったと思っています。大学の行事になりましたし、みなさんがさらにねぶた絵に興味を抱いてくれるようになったと思います。近くの五所川原のねぶたとか、青森のねぶたがだんだん盛んになっていくなかでも、弘前はまさに伝統ねぶたなんです。絵そのものに関心が集まるあまり、それほど躍動的ではありません。ただその絵が、以前の現物の色付き物として世に出てきたものから、津軽のねぶたを愛する方々にとっては大変な驚きだったようです。

### 地域に根ざした出版社として

——その後、出版活動がいまに至るまで続くなか、弘前

大学出版会らしき、あるいはコンセプトをどのように持っているのでしょうか。

先ほどお話ししたように、設立当初の目的である教員の業績を発表すること、特に文系の教員が自分の研究成果を公表する場にするのが、第一の目標です。

二番目は、学生のための教科書をつくることです。教員の業績評価は研究を中心に測られがちですが、教育面も重視したいと思っていますし、学生の立場からすると、目の前の教壇にいる先生自身が書いた教科書で学べば、意欲や興味も増してくるかもしれません。とりわけ、教養教育を行うなかでさまざまな教養をどう身に付けてもらうかという問題があります。そこで先生方が何人かでもとまれば、良い本ができるのではないかと思います。

三番目は、学生自ら出版に参加して、自分たちの手で作る経験を与えることです。先ほどお話ししましたが、高校時代に自分の仲間が一生懸命新聞をつくったりしてい

## 明日なき原発

『原発のある風景』増補新版

柴野徹夫著  
安齋育郎協力

原子力発電所がもたらす地域社会の荒廃と地方行政の腐敗を執念の取材で暴き出し、1981年度日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞した先駆的ルポルタージュを大幅に増補。著者の盟友にして放射線防護学の権威である安齋育郎氏の協力のもと、脱・原発のためにいまわれわれが踏み出すべき一歩を示す。

■1890円

## 家郷のガラス絵

出雲の子ども時代

長谷川槇子著

次世代へと遺され、あるいは受け継がれていく「語ること」の豊かさと思慮さ、そして人生の滋養となる子ども時代の体験をみつめる、ふるさと回帰の旅。『とんぼの目玉——言の葉紀行』につづく第二エッセイ集。

■1890円

【転換期を読む12】

## ホップズの弁明 ／異端

トマス・ホップズ著  
水田洋編訳

巧妙な語り口で自分の主張を擁護する「ホップズの弁明」、そして信仰内容を単純化することで論争の余地を封じた「異端についての歴史的説明と、それについての処罰」。主著『ヴィア・アサン』で述べられた核心が凝縮された一冊。

■1890円



未来社 〒112-0002

東京都文京区小石川3-7-2

tel 03-3814-5521

http://www.mirai-sha.co.jp/

★出版図書目録無料進呈いたします★

※価格は税込

るのを見て、これはすばらしい体験になると思っています。出版業への就職を希望する学生の体験学習ということもあり得ますが、そのような学生だけでなく、皆で議論して企画や構成を考え、原稿も執筆し、編集作業も行い、本にしていくという作業からは多くのことを学べるように思います。

一方、地方の大学が出版活動を行うなかで、どのような本にみなさんの関心が集まるかという点、先ほどの『津軽の華』のような地域に根ざした作品ではないでしょうか。弘前大学出版会の出版物では、世界遺産に登録されている白神山地に関する本、あるいは食の観点から弘前を紹介した『ようこそ、フランス料理の街へ』などへの反響が大きいです。実はこのような作品の出版は最初は想定しておらず、大学のクオリティを上げるための、ハイレベルな哲学や文学の作品を一生懸命出さねばと思っていました。もちろんそれは大事ですが、加えて、大学そのものが地域と深く関わっていますので、自分たちの地域・地元を根ざした本を出していくことも大事だと思います。地方の大学出版会に求められ、あるいは活力を見出すとしたら、このあたりにヒントがあるように思います。

——三番目の、学生が出版を手がける試みはユニークですね。

まだまだ充分ではありませんが、学生は面白がってやっています。出上がった作品を私のところへ持ってきたときに話してみますと、彼らはそれなりに、やったな、という充実感を抱いていますね。国際協力機構（JICA）に関わってきた津軽出身のプロフェッショナルに学生がインタビューした『津軽から発信！ 国際協力キャリアを生きる JICA編』は、全国紙でも取り上げられました。

また、学生が参加するという点では、学生から図書館宛に文芸作品を寄せてもらう企画「弘前大学『言語力』大賞」というものをつくりました。そこで精選された学生の創作を何年分かまとめ、『幻灯夢——弘前大学「言語力」大賞作品集』として刊行しています。

### 設立から七年、課題と展望

——出版会設立から約七年経ちますが、地方で出版活動を行う難しさもあると思います。現状をどう見ているのか、そして課題はどのあたりにあるのか、お聞かせください。

当初の一番の目標である文系教員の研究成果の発表という点では、まだまだです。どうしてなのかと編集長に聞いたり、あるいは私も先生方から直接話を聞いたりすると、人文系の先生方は研究書を出版することの重みを、私が思っている以上に感じているのです。とりわけ文系の先生方

が念頭にあるのは、単著なんです。ですから、理系の人たちに多い共著・分担執筆と異なり、相当の分量を体系的にまとめて書くことに重みを感じているようです。

もうひとつは、流通の問題になります。とりわけ文系の先生方にとって研究書の出版は自分のライフワークを賭けた感があるのですが、その出版物を広くみなさんに知って

いただくべく訴え掛けるときに、弘前大学出版会の販売力は、ほかの出版社と比べますと圧倒的に弱い。「最近こういう本を出版したから暇があったら見てください」と、他社で刊行した自分の作品を持ってきてくれる先生もいるので、「先生、どうしてうちから出してくれないかっただけですか」と追ってみると（笑）、そこで吐露される問題は、ライフ

ワークとして掲げたテーマを長年掛けて書いたものが、弘前大学出版会から出したときにどれだけ広く行き渡るのか、という悩みです。確かに私どもの出版物にもISBNコードは付くのですが、実際の流通・販売面ではまだまだ力不足です。いろいろな書店に行き渡るよう流通経路を切

り開いていかなないと、先生方の期待に答えられないと思います。

——今後の展望や夢は、どのように描いているのでしょうか。

出版会と名乗った以上は、本が継続的に出版されることが一番大事な点ですね。さらには、出版物を通じて大学の教育・研究活動の状況を広くみなさんに知っていただきたいと願っています。

弘前大学の刊行物でよく売れたもののなかに、先ほど挙げた『津軽の華』などのほかに、『校長日記 養護学校30years——もつと知ってほしい、みんなのこと』という本があります。これは大学附属特別支援学校の前校長先生が自身の体験をもとに書いたものですが、静かなブームを呼びました。商業出版社ではなかなか引き受けられないかもしれませんが、大事なテーマを扱っていると思います。

興味尽きないエピソードが満載  
江原 紬子 編  
東四柳 祥子 編  
**日本の食文化史年表**

狩猟・採集からレトルト食品・外食産業まで。日本人の“食”のすべてがわかる楽しい年表。5250円

みやこ  
**京を支配する山法師たち**  
中世延暦寺の富と力  
下坂 守著 2835円

**「蛮社の獄」のすべて**  
田中弘之著 3990円

歌舞伎から **恥と情**  
江戸を読み直す  
田口章子著 1890円

**岩崎彌太郎**  
治世の能吏、乱世の姦雄  
小林正彬著 2625円

**華族令嬢たちの大正・昭和** [2刷]

華族史料研究会編 2940円

**明治維新と横浜居留地**  
英仏駐屯軍をめぐる国際関係  
石塚裕道著 2835円

**「帝国」の映画監督 坂根田鶴子**  
「開拓の花嫁」一九四三年・満映  
池川玲子著 3990円

**民俗学とは何か**  
柳田・折口・渋沢に学び直す  
新谷尚紀著 1995円

**吉川弘文館**  
〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8  
電話03-3813-9151 / 価格5%税込  
2011年版 / 出版図書目録 / 送呈

ですから、あまり背伸びせず、大学のなかで見受けられる興味深いテーマを大事にし、ほかの出版社では引き受けられない、あるいはお金が掛かるなどの事情により出版が難しい場合や先生方が出版を躊躇されている場合に、地方の大学出版会として後押ししていきたいと思います。

もうひとつは先ほどお話ししたように、地方の地域性というものを大事にしていきたい。こうしたことを基本に据えていくべきだということは、編集委員の方と話をしています。

出版点数も少しずつ増えてきましたから、学内でも少しは知られるようになり、今度は自分が本を出したいと相談もくるようになりました。実際の出版までには紆余曲折あると思いますが、最初の頃に比べたら、本を出してみたいという気持ちを持つ人が出てくるようになっただけでも、大学としてはレベルが上がったのではないかと思います。身近に出版会があることで、教員や学生の意識も少しずつ変わってくると期待しています。弘前大学出版会をつくって良かったことがあるとすれば、最大のところはその「意識の変化」ではないでしょうか。

## 大学出版部に期待すること

最後に、大学出版部全体に期待すること、あるいは要望についてお聞かせください。

先ほど申し上げましたが、出来上がった本をどのように流通に乗せていくか、PRして売り込んでいくか、という点で私どもはまだまだです。地方紙に定期的に広告を出してPRを行い、また街の本屋さんにも平積みをしていただいています。弘前でも本屋が減っていくなど厳しい事情もありますので、それだけでは不十分です。少しでも力を貸していただければと思います。

一方、大学出版部を盛り上げていくという点で、弘前大学では図書館の充実を図るなかで予算を増額し、大学出版部協会の仲間が出しているしっかりした学術書を積極的に購入しています。この狙いは、もちろん教員や学生が勉強を進めるための基礎資料として役立てていただくことにあるわけですが、さらに弘前大学出版会の立場からは、ほかの大学出版部の作品を近くに置き比較参照することで、自らの出版部のレベルアップを図り切磋琢磨してほしいという思いもあります。本つくりという点でも、いろいろ知恵を貸していただければと思います。

# 「本の学校」について語ろう

永井伸和  
(今井書店会長)

## 本の学校とドイツ書籍業学校

本の学校の源は二つあります。一つは、明治、大正、昭和の出版界の生き証人として、九十五歳で亡くなる一か月前まで孫たち（田江泰彦・今井書店社長、今井直樹・本の学校塾長、永井）に「ドイツの書籍業学校のような専門職を育てる学校を」と語った小社三代今井兼文です。兼文は昭和四十年代に東京で二度、書店人の研修施設設立に奔走しました。一度は日本の書店組合の連合会、二度目は書店の共助会においてです。それは一九四三年の鳥取大地震、そして一九五二年の鳥取大火の体験により、自ら提案した全国書店共助会の歩みの中で、過去への保障だけではなく未来への保障「人づくり」を考えたからです。ともに総論賛成でも実現には至りませんでした。

もう一つは、鳥取県民の多年の読書推進、市町村図書館

の振興、地方出版物の振興を求め続けてきた「読者運動」です。

一九九二年、今井書店創業百二十周年事業として「本の学校」構想を発表。一九九三年二月、本の学校準備会のもとに山陰運営委員会、東京運営委員会を立ち上げ、構想の検討を始め、九月にはドイツ書籍業学校視察に一行六名が向かいました。

ドイツにはギルドやマイスターの歴史が生きていて、職場での実技研修と共に、業種ごとの職業学校と資格制度があり、ドイツ連邦共和国における二重教育システムと呼ばれています。学校に寄宿舎を併設するフランクフルト郊外の書籍業学校では哲学から始まり、マーケティング、経営管理まで書籍業を総合的に学び、初級コースでも三年間に九週間を二度にわたり研修していました。

印刷メーカーでは、少々高くても良質のものを長く使う、

その方が結果的に環境にも優しく経済的でもあるという、堅実な国民性に触れました。事実、ユーザーに何十年も対応できるように部品が整理保管されてきました。これは国民の読書や本に関する見識にも共通のものと思えました。

流通会社では、「出版流通のメカニズムは、日本の方が優れていることを知っていますが、違うのは、書店と読者を大切にする哲学です」と明言されました。ドイツでは、前日の夕方に注文した本が全国の街の書店に翌朝には届き、出版数ヶ月前に書誌情報は共有されて、責任ある出版と仕入れによって返本率はごくわずかです。書店の店頭の情報端末は、直接出版社及び複数の流通業者とつながっており、基本的書誌データは一元化され、業界の電子データ交換がなされています。

日本のように書籍と雑誌が一緒に東京発地方行きで委託流通する合理性は無くても、書籍の単品流通は大切にされ、再販制度（時限再販）があり、大型書店は増えつつあっても、何でも相談でき、欲しい本は翌朝には届く街の書店も頑張っています。

この視察によって目を開かれる思いがしました。出版界全体が読者と書店のための協働のシステムであり、それを支える専門的な「人」の存在があります。さらに、その背景にある図書館や、学校図書館の充実、職業教育を大切にしている国や州の教育制度の、日本との余りにも大きな違いを思い知らされました。

日本でドイツのような学校を、民間で、それも東京で出来なかったことを地方で設立することは到底無理だという無力感に襲われました。しかし気が付いた以上、歴史あるドイツとは異なり、本の学校準備会のもと、山陰運営委員会、東京運営委員会に集う人々と微力であっても力を合わせ、「地域」を原点到「地域の人々の生涯読書の推進」「出版や図書館のあるべき姿を問うシンポジウムやセミナー」、そして「業界人・書店人の研修の講座」と、ドンキホーテと呼ばれても背景づくりからできることを始めました。そして一九九五年、鳥取県米子市に本の学校を設立しました。

### 鳥取県民の「読者運動」——「本の国体」と「地方出版文化功労賞」

今井書店は、学制発布の一八七二年、蘭方医初代今井兼文が米子市に創業したものです。

一九七二年、今井書店創業百年記念の地方紙座談会の特集記事の見出し「市立の図書館をぜひとも」「地方出版も育てよう」「文化活動の拠点に」が、地元読者への約束手形のようになって、その後の小店の歩みを方向づけました。

グループ店の中に「とっとり子ども図書館」を開き、県内に児童文庫を広げる運動に参加し、身近に市町村図書館が欲しいという県民の運動の高まりにつながりました。そして開かれた図書館づくりのシンポジウムにおいて、会場



から国民体育大会のような県民あげての運動ができないかという提案がありました。

これが一九八七年に県民の実行委員会が県内三市で開催したブックインとつとり<sup>87</sup>「日本の出版文化展」であり、「本の国体」と呼称されました。手づくりで模擬的に図書館の世界を県立産業体育館などにつくり、「地球は今」をメインテーマに、人、生命、自然など三万五千点の本の展示と各種イベント、シンポジウムを行い、延べ十日間に県人口の一割を超える六万七千人が参加しました。身近なところに市民の図書館があれば、これだけ利用者がいるという証となりました。

鳥取県教育委員会の方針と自治体の施策のもと、平成元年は「図書館元年」と一九九四年の全国図書館大会鳥取開催を目指し、次々に市町村図書館が誕生しました。

一九九九年に片山善博知事が誕生すると、県予算の第一位は教育費となり、公共図書館、学校図書館改革が始まりました。

## 新曜社

### イデオロギーとユートピア

ポール・リクール 著 川崎惣一 訳

マルクスからウエーバー、マンハイム、アルチュセールの思想にイデオロギーの変容をたどり、ユートピアの思考と対比、社会的想像力のゆくえを探る。A5判504頁・定価5880円

### 焦土の記憶

福岡良明 著

沖縄・広島・長崎  
に映る戦後

沖縄戦、広島・長崎の被爆という「現在」も続く戦争体験を、地元メディアの掘り起こしを通じて明らかにする。戦争体験論の更なる深化・継承をめざす労作。四六判536頁・定価5040円

また、「本の国体」の一つのコーナーであった「全国各地の本展」を記念し、「地方出版文化功労賞」を制定し、本年第二十四回を数えます。北海道から沖縄までの全国各地で出版された本を地方・小出版流通センターや、各県の教科書特約供給所の協力を得て毎年鳥取県に集め、展覧し、県民の投票と十数名の審査員の選考で地方出版文化功労賞（鳥取県内出版物は除く）をブックインとつとり実行委員会（小谷寛委員長）が贈っています。

第七回の青木新門著『納棺夫日記』（富山県桂書房）、第十二回の渡辺京二著『逝きし世の面影』（福岡県葦書房）など話題になったものや、第十八回特別功労賞の佐々木馨著『北海道仏教史の研究』（北海道大学図書刊行会）、第十八回の丸谷馨著『ようこそ、フランス料理の街へ』（弘前大学出版会）などの大学の出版会の受賞もあり、各地の歴史や文化を伝える地方出版活動によって、多様な日本列島の新しい豊かさに気付かされます。

東京神田神保町2-10〈税込〉  
電話 03-3264-4973  
FAX 03-3239-2958  
<http://www.shin-yo-sha.co.jp/>



## 本の学校のこれまで、これから

一九九五年、日本海を前に、国立公園大山大山を仰ぐ鳥取県米子市に「本の学校」を設立しました。今井兼文の住んでいた土地を売却した資金で、その精神を継承すべく、実習を行う店舗と印刷工場も設立しました。「本の学校」の二階の研修施設には研修室、本の図書室・博物館、多目的ホールなどがあります。

「地域」を原点に、「地域の人々の生涯読書推進」「出版界や図書館のあるべき姿を問うシンポジウムやセミナー」、そして、「業界人、書店人の研修」、これらを「『本の学校』の三原色」と呼び、春の研修講座、夏の「『本の学校』大山緑陰シンポジウム」を開催しました。

「地域から描く二十一世紀の出版ビジョン」を総合テーマに著者から読者まで垣根を越えて、五年間に延べ二千人の出版界、図書館界、教育界、マスコミ界のさまざまな人々が集いました。グーテンベルク以来のメディアの変容に遭遇するなか二泊三日の合宿で熱く語り合い、五冊の記録集を残しました。

このシンポジウムの分科会から林公先生の「朝の読書運動」は全国に広がり、「本の学校」生涯読書をすすめる会も生まれ、絵本によって赤ちゃんと母親がコミュニケーションを図るブックスタート運動の普及に成果を見ています。二〇〇六年からは、かつて大山シンポジウムに参加し

た若い世代が立ち上げた出版関係勉強会「でるべんの会」を中心に二十一世紀の主役達の実行委員会が毎年課題を掲げ、「『本の学校』出版産業シンポジウムin東京」を開催しています。

## 十七年目の春を迎えた本の学校——復興への祈りと「知の地域づくり」への挑戦

一九九五年一月のオーブンレセプションの日が阪神大震災の日であったことが甦ります。

今年三月に予定していた運営委員会を、三月十一日の東日本大震災とそれに続く原発事故への追悼と悲しみのなか四月に延期し、神田の岩波セミナールームで東京運営委員会を、米子市の「本の学校」で山陰運営委員会を開きました。

本年も、七月九日（土）に東京国際ブックフェアに併催して「『本の学校』出版産業シンポジウム二〇一一in東京」いま改めて書店について考える——本屋の機能を問い直す』を行いました。

また本年は今日までの事業に加えて、東京で街の本屋の本質を改めて問う「本の学校」連続講座「本屋の未来を創造する」を四月より毎月開催しています。さらに紙の本と電子の本の補完性と専門性を問う、ワークショップによる次世代モデル店づくりなどの総合ビジョンの成果により、新世紀の「本の学校」のテキストやカリキュラムづくりと、

モデル店舗の実験に挑戦しようとしています。

この新しい試みは、世紀末の五年間の「本の学校」大山緑陰シンポジウムに参加した現在三十代の皆さんが中心になり、本の学校NEXTと呼んで企画運営しています。

そして懸案の「本の学校」法人化による正式開校（NPO法人等）も目指し、今井書店の事業というイメージを払拭し、法人化の検討を経て、広くサポーター会員（年会費・法人一口一万円、個人五千円程度の「案」）を求めようとしています。大きな潮の変わり目に、二十一世紀の主役達の聖域なき公論の場を作り、漆黒の夜の海にあえて、身の丈にあった小舟を漕ぎ出し、夜明けとともに明日をひらく針路を見出そうとするものです。

今、街の本屋は激減し、日本の出版流通制度はもはや制度疲労を起こし、一方電子化の波にどう対応するのか、改革は待ったなしです。

高度情報化や国際化の中で、地域の大学や図書館や街の書店の明日を忘れてはならないと思います。中央と地方の

格差は広がり、地域が音も無く崩れつつあります。

北海道から沖縄まで個性豊かな「知の地域づくり」、足腰の強い国づくり、人づくりに、地域の大学、図書館、学校図書館、街の書店、出版社、研究施設、文化施設の協力は不可欠です。自然の力の前に、人間は微小な地球人であり、地域人であることを改めて実感した今は、地域の自立と再生・復興のために考える市民、創造する市民が創る市民社会の絆をとにも求め続けて行きたいと思っています。

7月の新刊

刀水歴史全書82

## 人種差別の世界史

白人性とは何か？

藤川隆男著 時代と共に変化する人間社会、白人性の概念、差別意識。身近な処から  
四六上製 270頁 ¥2415

好評発売中

刀水歴史全書81

## ギリシアの古代

歴史はどのように創られるか？

R.オズボン著/佐藤昇訳 古典期までのギリシア史と、その研究法の基礎が、最新の成果に基づいて語られる  
四六上製 270頁 ¥2940

## ヨーロッパの北の海

北海・バルト海の歴史

D.カービー、M.L.ヒンカネン著/玉木俊明・牧野正憲・谷澤毅・根本聡・柏倉知秀訳  
北方ヨーロッパの自然環境、人々の生き方、造船技術などの多面的世界を、一冊の本に凝縮した海事史の決定版  
A5上製 452頁 ¥6300

## 生まれる歴史、創られる歴史

アジア・アフリカ史研究の最前線から

永原陽子編 多様な史料を用いて、アジア・アフリカの様々な力の交渉と交流の場で「歴史」が描かれ創られていく過程を論じる7人

A5上製 240頁 ¥3045

刀水書房

東京都千代田区西神田2-4-1  
Tel. 03-3261-6190 Fax. 3261-2234

# 私たちはここで本を出し続ける——「被災地」からの挑戦

土方正志（あきよし）  
（荒蝦夷代表）

さて、なにを書けばいいのだろうか。与えられたテーマは「地域に根差した出版を——荒蝦夷の挑戦」である。昨年十一月に仙台で開催された「大学出版部協会 編集部会二〇一〇年度秋季研修会」で、仙台の出版人として「地方都市における出版事業」と題して披露した講演ならぬ漫談が契機となつての原稿依頼だったわけだが、ご依頼いただいたのはいつだったろう。そこに起きたのが東日本大震災である。仙台市内にある私の自宅マンションは大規模半壊の認定を受けた。自宅の壁に手首まで呑み込むほどの亀裂が走る。そもそも倒壊の危険性があるため「夜間立ち入り禁止」といわれては、既にそこは自宅ではあるまい。というわけで、私は被災者となつた。いつまでも支給されない日本赤十字の義援金や「被災者生活再建支援金」を待つ毎日である。

だから実は「地域に根差した出版」といわれてもそれど

ころではない。震災後の大混乱にこの原稿依頼もすっかり忘れていた。そこに「忘れてないですよね」とメールが。押っ取り刀でパソコンに向かったものの「さて、なにを書こうか」である。今年、民俗学者・赤坂憲雄さんの（東北学）の立ち上げと共に業務をスタートさせて十年の節目の年だった。諸々の出版計画があり、イベントも企画していたのだが、今やそれどころではない。すべて吹っ飛んだ……だが、新たな道も、また見えてきた。なんとか前に進めようである。そこで「地域に根差した出版」を目指してきた我々が、地域に起きた災害にどう対処し得たかを書かせていただくことにしよう。

被災当初は営業再開も覚束なかった。事務所のある建物はなんとか無事だったものの、本棚は倒れ、デスクトップのパソコンは宙を飛び、資料や書類が散乱して足の踏み場もない。ライフラインも通信も途絶。余震もしつこく続く。

私たち夫婦に社員二人、そして不安を感じて合流してきたアルバイト関係者二人で車中泊を経て近所のお寺の本堂に入る。食料不足に燃料不足。あの津波で沿岸の書店さんの店頭在庫は壊滅的被害を受けているだろう。海沿いの印刷会社の倉庫に預けてあった在庫も安否不明。また、直販制で東北を中心に全国の書店さんとお取り引き願っているわけだが、商品の発送も不確実。手も足も出ない。借金もある。余力があれば立ち止まって立て直してもできようが、なにせ社員三人の超零細企業である。立ち止まったら、即、倒産である。もう、ダメか……（3・11）直後、正直、そう思った夜もあった。

震災四日目の夜、東京から救援が届いた。急を知った我ら（東北学）のボス、赤坂さんが、ルポライターの山川徹を招集。東京の旧知の編集者とも連絡を取って物資を手配。クルマもご提供いただき、山川をドライバーに送り出してくれたのだ。山川は新潟経由で仙台入りしてくれたのだが、ありがたかったのはガソリンの調達だった。これまた旧知の新潟県のマタギ村のみなさんが持たせてくれたガソリンだった。深夜、事務所のクルマにガソリンを補給して、我ら六人、まずは山形に向かった。上山市の山川の実家にお世話になって、今後の体制を立て直そうと図ったのである。ちなみに山川は仙台の大学に通っているところからウチに入りしていた男であり、ご両親とも以前からおつきあいがあった。

### 被災地から送りだすべき「ことば」

山形に着いた我々を待っていたのは意外な動きだった。山形市内の書店さんが（荒蝦夷支援ブックフェア）を開催してくれていたのだ。アンソロジスト・文芸評論家の東雅夫さんの呼びかけに呼応してのものだった。東さんとは、昨年、柳田国男『遠野物語』刊行百年を期して（みちのく怪談プロジェクト）なる企画を共に立ち上げ、今年も第二回を予定している。偶々繋がった電話でこちらの無事はお伝えしていたのだが、その東さんが即座に動いてくれた。「本を買って荒蝦夷を助けよう」との東さんのネット上での呼びかけに応じて、各地の書店さんや読者のみなさんのあいだにさまざまな動きが始まっていたのだ。ネットやメールなど見られる環境になく、そんな動きを知る由もなかった我々にはうれしいおどろきだった。平台に並んだ我らが本たちの顔を見て、言葉をなくした。

翌日から動いた。各地の書店さんに連絡を取った。電話してもファックスしても繋がらなかった、心配していた、追加注文はできるか……。「平台空けて待っている、既刊をすべて送ってくれ」と頼もしい言葉を頂戴した書店さんもあった。仙台から山形に在庫を移さなければならぬ。救援の拠点となっていた山形からは商品の発送も可能だった。山形市内に仮営業所を求めた。短期で借りられる家を見つけて、六人で入った。仮営業所にして自主避難所であ

る。ここに仙台事務所の在庫を運び込もうというわけだが、今度はガソリンがない。またもマタギ村に救援を求め、あるいはスタンドに並び、なんとかガソリンを手に入れては少しずつ山形へと在庫を運び出した。印刷会社ともやっと連絡が取れた。海沿いの倉庫は間一髪で無事だった。手前の荷物が崩れていてウチの在庫の棚までなかなかたどり着けず、運び出しにしばらくかかったものの、まずは在庫の無事に胸を撫で下ろした。

新刊の刊行には迷った。(3・11)以前の出版計画はとりあえずストップせざるを得ない。どうすべきか。気がかりもあった。社員の一人の実家が宮城県北にあった。家屋は揺れにより全壊。一人暮らしのお母さんが避難所や知人宅を転々としていた。こちらの安否確認はできたのだが、アルバイト女性の家族と連絡が取れない。実家は宮城県気仙沼市、お父さんは海の仕事。最悪の事態も予測された。一週間目に家族と連絡が取れたのだが、お父さんは行方不明。家族は混乱の気仙沼への彼女の帰宅を止めた。更に一週間。遺体が発見された。ガソリンを掻き集めて、彼女と共に気仙沼へと向かった。棺を運び、遺体と対面した。共に酒を酌み交わした人の、亡くなって二週間目の遺体の手を合わせながら、猛然と腹が立った。本を出そうと思った。被災地に生まれ育った、あるいは縁ある著者のみなさんに、被災地のところを語っていただこうと原稿を依頼したのは三月の末だった。伊坂幸太郎さん、大島幹雄さん、木

瀬公二さん、熊谷達也さん、黒木あるじさん、斎藤純さん、佐藤賢一さん、高成田享さん、高橋克彦さん、高橋義夫さん、東雅夫さん、星亮一さん、三浦明博さん、山折哲雄さん、吉田司さん、そして赤坂さんに山川。混乱の中、みなさん即座に執筆をご快諾いただいた。写真はフォト・ジャーナリスト亀山亮さんの手を借りた。締め切りはるか前にほとんどの原稿が届いた。怒りや悲しみや焦燥が文章にあふれていた。被災地から送り出すべき「ことば」が、あった。ずっしりとした重みを確かにこの手に感じた。

こうして『仙台学 vol.11 東日本大震災』の刊行に漕ぎ着けたのは四月二六日。幸いにもご好評いただき、版も重ねた。現在、引き続きこの度の震災をテーマとした次号の刊行を企図している。だけではない、次々と新たな企画が生まれ、舞い込んでいもいる。すべてテーマは震災である。震災を語り続けるための仕事に取り組もうと決めている。それが被災地の出版社のなすべき仕事でもあろう。

それにしても、震災以来、本にまつわる同業者に、物心共にさまざまにご支援いただいた。いや、今もいただいている。思わず弱音を吐く私に「だいじょうぶ、荒蝦夷を潰させはしない」といつてくれた関係者は一人ではなかった。ただ、感謝のみである。

## 地域で「壊滅」したものは

もうひとつ、ある。十年前、仙台に拠点を移すまで、東



京でフリーの編集者、そしてライターとして暮らしていた。テーマのひとつが災害だった。雲仙普賢岳の噴火、奥尻島の地震と津波、阪神・淡路大震災、三宅島の噴火、有珠山の噴火。各地の災害現場に足を運んだ。大自然の驚異に戦慄して原稿を書き、本を編んだ。神戸には五年間にわたって通い続け、相棒の写真家・奥野安彦と共に『瓦礫の風貌 阪神淡路大震災1995』（リトル・モア）と『てつびん物語 阪神・淡路大震災 ある被災者の記録』（偕成社）を上梓している。仙台に拠点を移してからも災害と向き合った。二〇〇八年の岩手・宮城内陸地震である。『仙台学 vol.8』で「岩手・宮城内陸地震 山へ還る」と題して特集を組んだ。

実は、岩手・宮城内陸地震以前の災害取材で気にかかっていたことがある。災害が起きると現場に立った誰もが「壊滅」と評する。だが、実はこの言葉にはあまり意味がない。破壊された家並を見れば、そこにあるのは確かに即物的な「壊滅」だろう。だが、それではなにが壊れたのか。滅したのか。災害以前にそこにとどの様な暮らしがあったのかに思いを寄せない限り、壊されたもの、滅したものの本当の意味は理解できないのではないだろうか、伝えられないのではないだろうか、被災者の心情に寄り添えないのではないだろうか……。かねてからのそのような疑問に取り組んだのが『仙台学 vol.8』の特集だった。

甚大な被害を受けた宮城県栗原市の栗駒耕英地区には、

地域史をまとめた記録がなかった。被災者のみなさんと相談を重ね、そしてご協力を得て、戦後の開拓から始まった栗駒耕英の歩みを取材、被災一年後に成ったのが前記特集だった。眼前のドラマチックな現場のみを記録するのではなく、その背景にある「壊滅」したもの——地域の歴史やそこで練り広げられていた暮らしそのもの——を誌面に刻めた。災害をテーマとしてきた仕事の集大成となった……と、自負して三年、自らが被災者となったわけである。愚劣きわまりない原発事故まで連鎖して、さて、今度こそこれで終わりなのか。それとも、これからも続くのか。誰にもわかりはしないだろう。それが、災害の巢窟ともいえる列島に暮らす私たちの定めなのかもしれない。

ただ、これだけはいえる。全国の現場で、おそらく数百の被災者の声を聴いてきた。それが、今回、私を助けてくれた。神戸では、奥尻では、島原では、こんなときこうしていたな、ああしていたな。各地で目撃したことどもが、声が、脳裏を過った。助けられた。我ら〈荒蝦夷〉に支援を寄せて下さったみなさんと共に、そんな全国の「被災の先人」たちにもまた感謝を捧げたい。

千年に一度だそうである。被災者の戦いはまだまだ続く。これからも被災地の現実にくちろを寄せていただければと願う。事務所も自宅も共に山形から仙台への帰還を果たした。私たちはここで本を出し続ける。

# 未来の主人公のために、本はつくられる

—— せんだいメディアアテークでの出版を通じて

小川直人

(せんだいメディアアテーク学芸員)

先日、新しい書棚を買った。三月一日の東日本大震災で一部屋の床を埋め尽くし、かろうじて片付けたあとも平積みで床の半分を占めていた本をそこに並べなおす。いつまた大きな余震が来るとも知れず、いつそのこと壁一面を棚にしてしまおうと思いついて大ききものを注文したが（ここ）「いつそのこと本を捨ててしまおう」と思うかどうかで人は二種類に分かれる。おそらくこの文章を読んでいる方々は前者であると信じている）、もともと棚に本を二重に詰め込んだり、育児休暇を機に職場においていたものを段ボールに入れて持ち帰ってきたままだったりしたので、すべては入りそうにない。それでも、以前よりは多くの背表紙を見渡せるようになった。子どものころに読んだ本から、出るたびに買い続けた小説家の本、仕事の資料として読んだ本……同時代の作家という言い方があるように、自分の本棚というのは、間違いなく自分の人生と併走

する同時代の何かを表しているものだと思ってしまう。

棚のなかには、同じ背が並んでいるところもある。自分が制作に関わり、記念に何部かいただいたり、いそいそと別々の本屋で買い求めたものだ。しかし、本は読み続けているものの、編集者になろうとか、本をつくらうと思つたことはない。私は、せんだいメディアアテークという「新しいタイプの文化施設」と呼ばれて二〇〇一年に開館した、図書館・ギャラリー・映像メディアセンターを軸とした施設の学芸員ではあるが、そこでの担当は映像文化に関することで、本に関することはおろか、一般的な学芸員としても甚だ怪しげなものである。だから、本の制作に関わったといつても、優れた編集者やデザイナー、そして書き手の背に乗っていただけにすぎない。あるいは、本をつくり、それを人に届けるという長い歴史の一端に乗っているだけにすぎない。



## 本というものの自由さ

せんだいメディアアテークは、その開館に際して『せんだいメディアアテーク コンセプトブック』（N T T出版 二〇〇一年 後に増補版、増補新版が出る）という、地方都市の文化施設では当時めずらしく施設自身についてのコンセプトをまとめた本を出している。大学院を出て仕事を始めたばかりで、開館準備の火事場で右往左往していた私も、原稿のための資料をつくっていたのを憶えている。そのときは、作業の断片しか見えず、どうやってこれを本にするのだろうと正直思っていたが、出版された本を手にとって、自分が今おかれている現場とは別のメディアアテークを見たような気がした。ある建築・場をつくるための思考の成果が本という形をとって目の前にあったのだ。この『コンセプトブック』は、実際のメディアアテークとは違うと言われたりもするが、たしかに、運営マニュアルでもなく、思考過程を順に追った記録集でもない。まさにコンセプトとしてのメディアアテークなのである。幸いにして、こういった種類の本としては多くの方に読んでいただき、数年後には増刷することになった。そのときの編集者が単に増刷するのではなく、施設が使われ生きている現在を加えましょうと提案してくださり、増補版として現場レポートのページをつくることになった。私が本をつくるということに触れるのは、それがきっかけである。

その後もメディアアテークでは、一般的なミュージアムにあるように展覧会のカタログなどを発行してきている。私も映画に関する本を企画したり、オンデマンド出版を試みたこともあった。無料で配布される小さな記録集もある。そのなかでも、二〇〇九年から発行しはじめた機関誌『ミルフィユ』は、それまでの出版物とは異なり、地方の文化生成の現場を伝える雑誌として、出版社と組み一般書店での流通を前提につくられたものだ。試行錯誤を経ながら現在三号まで出ており、さまざまメディアを活用することを標榜するメディアアテークが、本というメディアに正面から取り組んでいるとも言えよう。

このように「地方からの発信」というおなじみのフレーズのとおりに本に関わってくると、地方の文化施設で本をつくることの意味を考えざるを得ない。現在、日本では年間八万点以上の書籍や雑誌が出版されているが、その多くは東京の出版社によってつくられたものである。そもそも出版社は約八割が東京にあり、流通も大手がおさえている。当然、出版人と呼ばれる人々もそこにいる。そういう点では、出版とはきわめて大都市に集中した産業である。さらに、言語と流通の壁により、映画やファッション・ブランドのように国を容易に越えるものではない。ほぼ日本のなかでのみ流通しつつ、かつ、東京と地方の圧倒的な格差がある出版界において、慣れない手つきでつくられ地方から発信された少数数の本など、ほとんど存在しないに均し

いのではないかとすら思ってしまう。

他方、本という紙の束を綴じたものという形式をとれば、どんな辺境からでもその海に投げ込めるのも事実である。

数少ない仙台の出版社からも読みごたえのある本は出ているし、東北大学のおかげで優れた学術書も出版されている。一冊一冊の本に目を向ければ、地方だからといって何か特別なことではなく、本づくりにおいて唯一重要なことは、必要とされるものをつくることだけであるという気がしてくる。私が担当した特集上映に関連してつくった『ペドロ・コスタ 世界へのまなざし／遠い部屋からの声』（せんだいメディアアテーク 二〇〇五／二〇〇七年）という二冊の本は、いまでこそカンヌ国際映画祭のコンペにも出る作家になったポルトガルの映画監督ペドロ・コスタに関する最初のまとまった本だったため、彼の映画に魅了された人々に読まれただけではなく、研究資料として使われたり、海外にまで飛び立っていった。なぜ日本の地方都市で、ヨーロッパのかつての大国の新鋭作家なのかということは今回の趣旨から外れることなので割愛するが、仙台から世界へ発信する本が生まれても誰もとがめる人はおらず（むしろ、そのときに仙台という地名は忘れ去られ）、必要とされるものをつくれば必要としている誰かに届くところが、本というものの自由さである。もしかしたら、ビジネスからこぼれたところに発信するものだからこそ可能になることがあるのかもしれない。そこでは時に、中央集権も市場経済も

乗り越える無謀な勇氣と闊達さが生まれるからだ。

### 本・時間・空間

ところで、地方から世界へ本を送り出すなかで、私はもうひとつの問いを抱くようになった。それは、本というメディアにおいて、世界へむけて発信するとは今日どういうことなのだろうか、というものである。先に述べた『ミル・フイユ』は、多様な活動を展開する文化施設の機関誌であること、なにより地方自治体の公金を使ってつくられるものであることから、ひろく一般にむけて、あるいは、公共性や公平性の担保という条件を意識・無意識に課せられている。しかし、さほど多くもない印刷部数では実際に行き渡る先はきわめて限られる。この行政用語としての公共という概念と、本を手にし読むという個人の行為の間にあるスケールのずれは何だろうか。ともすると、幅広い読者へ向けてなどというのは、読み手を具体的に想像することの難しさと、明確に主張し賛否を受け止める主体性を持つこととに対する逃げ口上でしかないのかもしれない。世界はもちろん日本も均質でないことが明確になった現在、世界中の人にとどくメッセージより、世界のどこかでそれを求める誰かに伝わることのほうがはるかに重要なのではないだろうか。

さらに、私たちが「世界へむけて」と言うとき、それは目の前の世界だけを指しているのではない。いま本棚にあ

る本は、かつて自分がそうしてきたように、自分の子どもや孫が読み何かを考えるきっかけになるかもしれない。書き手にしても、自分がいる今という世界の向こう側へむけて言葉を発する気持ちもあるだろう。

そこで思い出す映画がある。故・佐藤真が夭折した写真家牛腸茂雄について撮ったドキュメンタリー『SELF AND OTHERS』（二〇〇一年）。映画の最後に、生前の牛腸がテープレコーダーに吹き込んだ「もしもし、聞こえますか」という声が現れる。作家の死後につくられ、生前の姿がほとんど出てこない映画の最後流れるこの声は、自分のいない未来へ放たれた言葉として、不意打ちのように見る者に突き刺さる。本に載せられた言葉は、どれもがこの牛腸の声のような運命を背負い、うるのではないだろうか。世界が目の前だけではないと悟った者が絞り出す声のようなもの。

今、私たちは、インターネットと関連するテクノロジーによって容易に「世界」と繋がることができると目送れているが、実際には、データの集合として概観するか、距離を越えて瞬時に繋がることですべてを現在性のなかにとらえられるようになったと言わなければならない。それは地球という平面上の現在を手におさめているにすぎない。もちろん本はいまだそれに及ばず、相当な時間をかけてしか相手に届かない。一〇〇万の読者がいたら、それは一人ひとりの読書体験が一〇〇万回あるということだ。しかし同時に、

それは現在だけのことは限らない。本というメディアは、編集とシンプルなパッケージ化によって高い精度と身体性を保持したまま、だれかの肉体にぶつかるまでどこまでも時間と空間を旅していくのだ。

地震の後しばらくの間、暖房の切れた部屋で夜もろくに眠れないので、崩れた書棚から未読の本を探っては読んでいた。そのひとつ、故・伊藤計劃の小説『ハーモニー』のなかには、二一世紀後半の大災禍の後につくられた平和な管理社会で、紙でできたデットメディア本を読む主人公が登場する。学校でも特異な存在の少女が、孤独になるために最も良いとして映画や絵画よりも好むのが、わざわざ古いデータ・パッケージを書籍化した「本」なのである。孤独の持久力が一番頑丈なのは本だと。あと半世紀もすればこの物語が設定された時代になるので、現在騒がれているように本は今の形をとらなくなっているかもしれない。しかし、船が無造作に打ちあげられた道路を走り、数時間おきにラジオから放射線量の数値が淡々と読み上げられるSF的世界に生きることになった私たちは、彼女のように入本を手放してはならないだろう。なぜなら、SF世界の主人公たちは、本を読むことで世界を変える術と仲間を知るからである。

# ナチュラヒストリーの時間

大学出版部協会編 A5判/160頁/定価1680円

## 自然史へ誘う：博物誌から生態学、多様性生物学、ゲノムサイエンス、そして21世紀のナチュラヒストリーを愉しむ

### I. Prologue of Natural History

- 第1話 自然を記録すること……斎藤靖二  
第2話 自然史と本……青木淳一  
第3話 日本のナチュラヒストリー……岩槻邦男  
コラム① 動物写真の世界

### II. History of Nature

- 第4話 ノーチラス号が遭遇した大ダコ……奥谷喬司  
第5話 マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め……矢島道子  
第6話 京都の語り部：深泥池……竹門康弘  
第7話 遺跡の土に秘められた情報……松井 章  
コラム② ききみみずきん  
第8話 遺体で動物学を埋め尽くす……遠藤秀紀  
第9話 ダーウィンと魚類学：人々と時代と魚たち……武藤文人  
第10話 日本の小鳥飼育文化と鳴き合わせ……小山幸子

### III. Diversity of Nature

- 第11話 サクラソウとマルハナバチ……鷺谷いつみ  
第12話 日本列島に人間と野生動物との共生の歴史をさぐる……湯本貴和  
第13話 琉球列島の自然史……太田英利  
第14話 マンボウと標本……松浦啓一  
第15話 分類学事始め：タクソン、タイプ、名前……馬渡駿輔  
コラム③ サルにノミはいない？ 幻の定説

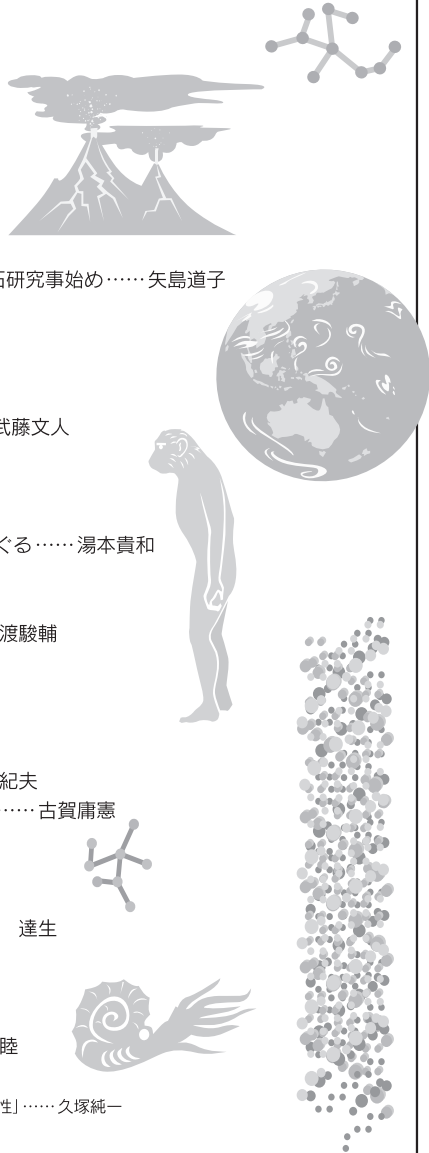
### IV. Story of Nature

- 第16話 クマ大量出沒の謎……大井 徹  
第17話 ふしぎの国のアリ巢……丸山宗利  
第18話 現代によみがえったインカ時代の狩猟……山本紀夫  
第19話 子どもたちと自然教室：干潟で役立つ本や教材……古賀庸憲  
第20話 熱帯雨林の林冠アリ……市岡孝朗  
第21話 殿様の自然史……松岡明子  
第22話 幻のロバと男たち……木村李花子  
第23話 食の博物誌：多民族国家のハイ・ティー……周 達生  
コラム④ アリジゴクの自然史

### V. Epilogue of Natural History

- 第24話 遺伝子を通じた動物との対話……村山美穂  
第25話 ゲノム時代のナチュラヒストリー……西田 睦  
コラム⑤ 小・中学校図書館は今

特別寄稿：「具体的な人間の日常性」と抽象化された「専門性・科学性」……久塚純一  
自然史文献リスト



## 大学出版部ニュース

●二〇一一年度定時社員総会…五月二七日開催の二〇一一年度定時社員総会は無事終了。二〇一〇年度事業報告と決算並びに監査報告、二〇一一年度事業計画と予算が承認された。人事では大野理事と大澤理事の退任に伴い、前島康樹氏（慶應義塾大学出版会）と西脇禮門氏（麗澤大学出版会）が新理事として選任された。

●第一四回日・韓・中大学出版部協会合同セミナー…二〇一一年度のセミナーは韓国大学出版部協会の主催により百済の古都、扶余で開催。セミナー主題は「デジタル出版の現況と大学出版部の対応戦略」。この報告は先に協会加盟校から寄せられた電子出版に関するアンケートの結果を参考に、国際部会で纏めたものである。日本側報告者は浦山毅氏（東京電機大学出版局）。本講演は夏季研修会で再現される予定。

●二〇一一年度夏季研修会…今年度の夏季研修会は八月二五日（木）から二七日（土）にかけて北海道大学で開催。今年も参加者に納得の「事例紹介」と「話題提供」に知恵を絞っています。

## 北海道大学出版会

▼三好教夫・藤木利之・木村裕子著『日本産花粉図鑑』（B5判・一八九〇〇円）  
四八八九枚の走査電顕・透過電顕・光顕写真と、総合的な解説、検索表を収録。

▼柴田晃芳著『冷戦後日本の防衛政策―日米同盟深化の起源』（A5判・四九三五円）  
日米同盟はなぜ強固になったのか。九〇年代の防衛政策形成過程を分析し、歴史的制度論に依拠して理論的に検討。

▼仙石学・林忠行編著『ポスト社会主義期の政治と経済―旧ソ連・中東欧の比較』（A5判・三九九〇円）  
政治を軸にした比較分析で、体制転換の特質を明らかにする。（スラブ・ユーラシア叢書9）

▼A・イラーセク著・浦井康男訳・註解『チェコの伝説と歴史』（A5判・九四五〇円）  
建国伝説から一八世紀初頭の民衆の反乱までを生き生きと描写した、チェコ文学の古典の初めての邦訳！

▼千葉恵編著『老い翔る―めざせ、人生の達人』（四六判・一八九〇円）  
高齢化社会を豊かに生きよう！／千葉恵編著『笑い力―人文学でワッハッハ』（四六判・一八九〇円）  
人生至る所に笑いあり！（北大文学研究科ライブラリ4/5）

## 弘前大学出版会

▼『弘大ブックレットNo.7 ものつくりに生きる人々―旧城下町・弘前の職人』  
杉山祐子・山口恵子編（A5判・一一五頁・定価七〇〇円）

▼『未来へ繋がる 弘前大学総合文化祭一〇周年記念写真集』  
学祭本部実行委員会編（A4判・七五頁・定価一五七五円）

▼『Seishu Hanaka and His Medicine―A Japanese Pioneer of Anesthesia and Surgery』  
松木明知著（A5変型判・二〇〇頁・定価三四六五円）

▼『脳卒中を知る―「アタリ」を予防するために―』  
若林孝一・佐藤敬編著（A5判・一〇七頁・定価七三五円）

▼『平均寿命をどう読む？』  
より平易に、より分かりやすく、より科学的に健康を語りたい（D）  
中路の健康医学講座増補改訂版』  
中路重之著（A5判・一一一頁・定価六〇〇円）

▼『憲法理論研究』  
堀内健志著（A5判・六八七頁・定価一一〇〇〇円）



## 東北大学出版会

- ▼吉野博・石川哲編著『シックハウス症候群を防ぐには―長期に亘る実態調査をふまえて―』(A5判、二九四〇円)
- ▼上田元著『山の民の地域システム―タングニア農村の場所・世帯・共同性―』(A5判、三七八〇円)
- ▼東北大学超小型衛星開発チーム著・吉田和哉監修『マイクロロケット開発入門』(A5判、三六七五円)
- ▼白旗希実子著『介護職の誕生―日本における社会福祉系専門職の形成過程―』(A5判、二九四〇円)
- ▼栗原隆編『共感と感応―人間学の新たな地平―』(A5判、三六七五円)
- ▼山口高弘・鳥山欽哉編『農学生命科学を学ぶための入門生物学』(B5判、二九四〇円)
- ▼山家智之著『人体はすべて機械化できる?―人工臓器医学講座入門―』(A5判、二一〇〇円)
- ▼東北大学高等教育開発推進センター編『教育・学習過程の検証と大学教育改革』(A5判、一七八五円)
- 『高大接続関係のバラダイム転換と再構築』(A5判、一七八五円)

## 流通経済大学出版会

- ▼『障害者旅行の段階的發展』井上寛著 (A5判上製・二四〇頁・三二五〇円)
- ▼『企業間関係の構造―企業集団・系列・商社―』島田克美著 (A5判上製・三六六頁・四二〇〇円)
- ▼『社会学は面白い!―初めて社会学を学ぶ人へ―』流通経済大学社会学部入門書編集委員会編 (B5判・二八〇頁・一五七五円)
- ▼『貨幣と市場の経済思想史―イギリス近代経済思想の研究―』小池田富男著 (A5判・三九二頁・定価四四一〇円)
- ▼『農業立地変動論―農業立地と産地間競争の動態分析理論―』河野敏明著 (A5判・六一〇頁・定価六三〇〇円)
- ▼『改訂版』交通学の視点 生田保夫著 (A5判・三三〇頁・定価三六七五円)
- ▼『現代経営管理と経営戦略モデル』宮脇敏哉著 (A5判・四〇六頁・三六七五円)
- ▼『安価な石油に依存する文明の終焉―蘇る文明と社会―』若林宏明著 (A5判・三八二頁・三三七〇円)

## 聖学院大学出版会

- ▼岸川洋治・柏木昭著『みんなで参加し共につくる』(福祉の役わり・福祉のこころシリーズ4、A5判並製、定価未定)
- 福祉が「人間の尊厳を大切にし、ひとりひとりの生きがいが尊重される実践」となるためには、生活の場である地域社会が福祉の場に形成される必要がある。
- この社会福祉の場としての地域社会形成に、戦後間もなくから今日まで六四年に亘って自覚的に取り組んできた横須賀基督教社会館の活動を振り返る。
- 今日では福祉が実践される「コミュニティ形成」が重要であることはよく知られているが、住民、自治会、行政を巻き込み、福祉に基づいた地域づくりの中心として活動してきた社会館の実践例は、さまざまな地域のモデルとなっている。
- 本書は、これからの地域福祉、児童福祉、高齢福祉、障害福祉のあり方を考える重要な資料である。
- シリーズの既刊は『福祉の役わり・福祉のこころ』(四二〇円)、『与えあうかわりをめざして』(六三〇円)、『とことんつきあう関係力をもとに』(六三〇円)である(税込み)。

## 聖徳大学出版会

- ▼特別支援教育研究室編「二人ひとりの二一スに應える保育と教育―みんなで進める特別支援―」(A5判・二〇〇頁・一六〇〇円) 特別支援に関する医学・心理学面の専門的な知識と保育・教育指導の実務に携わるのに必要な内容を網羅する。
- ▼村井靖児著「音楽療法を語る―精神医学から見た音楽と心の関係―」(四六判・二八〇頁・二一〇〇円) 音楽療法は心身の病理に対してどのような効果をもたらすのか、音楽はなぜ心を癒すのかを音楽療法の第一人者がわかりやすく解説する。
- ▼森彪著「医における癒し―人間関係の形成のなかから―」(四六判・二八〇頁・二一〇〇円) 医療現場での症例の紹介とその病氣と闘った人たちと著者との交流を描き人間的交流の必要性を強く訴えかけている。
- ▼高橋大海監修・Jソロイスト歌唱「親子で楽しむ唱歌集」(音楽CD・三四〇〇円) 文部唱歌をはじめ、「春が来た」など文化庁「親子で歌いつこう日本の歌百選」にも選定された二二三曲を含む全四二曲が収録されている。

## 麗澤大学出版会

- ▼麗澤大学道徳科学教育研究センター著「大学生のための道徳教科書〈実践編〉―君はどう考えどう行動するか」(A5判、一六六〇円) キャンパスライフの中で実践できるモラルを学生とともに考え、創り上げた画期的な教科書。
- ▼山内桂子著「医療安全とコミュニケーション」(A5判、一六八〇円) 医療事故を防ぐための、そして事故後の「コミュニケーション」とは。実践的なスキルを紹介し具体的な提案を行なう。
- ▼福田恆存著「福田恆存評論集 別巻 ホレイシヨ―日記・年譜」(四六判、二九四〇円) 本巻の刊行にて全巻完結。
- ▼Adam Komisarof著 *On the Front Lines of Forging Global Society—Japanese and American Coworkers in Japan* (A5判、二七三〇円)



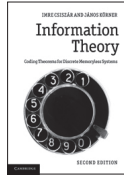
## 慶應義塾大学出版会

- ▼ジム・カミンズ著／中島和子訳・著『言語マイノリティを支える教育』(A5判・二〇〇頁・二九四〇円) 現代日本社会の抱える大きな課題のひとつは、「外国人児童・生徒の教育」と「日本語学習の仕組みづくり」。バイリンガル教育の世界的権威による近年の主要論文を厳選・訳出し、現場教師の実践を支えるさまざまな言語教育理論を提示する。
- ▼井筒俊彦著『露西亞文学』(四六判・二七二頁・三九九〇円) 一九世紀ロシアの終末論的な文学作品に、人間存在の原始的・自然性への探求をみる、卓越したロシア文学論。慶應義塾大学通信教育部編『露西亞文学』(慶應通信、一九五一年)を底本に復刻。「ロシアの内面的生活」(個性)所収、思索社、一九四八年)を併録。
- ▼レオポルド&ステイアーズ編著／山岡龍一・松元雅和監訳『政治理論入門―方法とアプローチ』(A5判・三六八頁・三三六〇円) 政治理論の初学者に対して、分析哲学・社会科学・形式論理・批判理論・思想史研究・イデオロギー論など多様な研究方法を示す、オックスフォード大学の連続講義を元にした画期的な一冊。



## ケンブリッジ大学出版局

▼ The Mystery of the Last Supper  
Reconstructing the Final Days of Jesus  
(Paperback 9780521732000 USD 24.99)  
福音書と科学的調査における不一致を調和させることで、聖週間の新しい明確なタイムラインの中に、最後の晩餐が行われた正確な日付を明らかにした一冊。



▼ Information Theory: Coding Theorems for Discrete Memoryless Systems, 2nd ed.  
(Hardback 9780521196819 USD 99.00)  
一九八一年にハンガリーの出版社が出版後、またたく間に在庫切れとなった情報理論の分野における伝説的書籍の第二版。冷戦時代の流通困難な時代には、世界中の有名大学で図書館から持出禁止、或いは数カ月先まで予約で埋まっている状況でした。第二版では、全面的に内容がアップデートされ、二つの新しい章が加わり、第二版に使われた難解なソ連式の数学的表記は標準化され、より使いやすくなりました。

## 産業能率大学出版部

▼『レスポンス広告のツボー実務で使える「売れる広告」の作り方』平野義典著・有田昇監修（四六判・一六八〇円）この1冊でレスポンス広告のすべてがわかる。  
▼『ビジネス電話のマナー&技術』大嶋利佳・茶谷武志共著（四六判・一五七五円）電話対応の基本について事例を交えながらやさしく解説。

▼『資格検定120%フル活用術』高島徹治著（四六判・一五七五円）資格の鉄人が資格活用方法を完全マニュアル化。

▼『平成23年度 徹底解説・2次試験イオンテリアコーディネーター資格試験問題』産業能率大学出版部発行（A4判・三六七五円）

▼『サービス&ホスピタリティ・マネジメント』サービス&ホスピタリティ・マネジメント研究グループ著・徳江順一郎編著（A5判・二六二五円）

▼『聞き上手、33のテクニク』櫻井弘著（四六判・一五七五円）「聞くこと」の意義と効用」を分かりやすく解説。  
▼『ストリートファッション論―日本のファッションの可能性を考える』渡辺明日香著（A5判・二一〇〇円）

## 専修大学出版局

▼『多角化企業におけるエネルギーの管理に関する研究』松村広志著（A5判・二九四〇円）

厳しい経営環境の中で、企業の相互マインナス効果としてのエネルギー管理について考察・検討する。事業構成の決定と資源配分に関するエネルギーや、業績評価に関するエネルギーの意義や測定を試みる。



▼『今村懲戒事件（一）〜（五）』専修大学今村法律研究室編（A5判・五〇四〇円〜五八八〇円）

私鉄疑獄事件の公判において、弁護側が裁判長以下を忌避したことから発した本事件。忌避問題の経緯、公判調書、弁護権蹂躞問題記録、弁護人の在廷義務に関する調査書、島田武夫論文、書簡類、口頭弁論調書などを収録。

## 大正大学出版会

▼中村敬著『小児科医が語る子育て支援  
の実際―支援者をサポートするために  
―』（四六判・三二〇頁・一九九五円）

小児科医でもある筆者が、実際に子育て支援の現場に参加し、取り組んできた調査研究の結果と講演や研修会で得た体験を織り込んだ、子育て支援者へのアドバイス本。



▼小沢憲珠監、勝崎裕彦・林田康順編『浄土教の世界』（四六判・三六八頁・一九九五円）インド・中国・日本における浄土教の思想と歴史について論述。その浄土教が日本の文化などに及ぼした影響、さらには、現代社会において果たす役割などについて言及する。



## 玉川大学出版部

▼現代演劇協會監修「福田恆存対談・座談集 第一巻―新しき文学への道」（四六判・三一五〇円）三島由紀夫、武田泰淳らを相手に「演劇というものを中心にした文学運動を起さなきゃならない」と述べる表題作の他、全十八編を収録。昭和を代表する批評家・劇作家、福田恆存が激動の時代を語り尽くす「対談・座談集」第一巻。

▼オットー・フリードリヒ・ボルノー著／岡本英明訳『畏敬』（A5判・五六七〇円）ボルノー著作集に収められた主要著作のうち唯一未邦訳だった著作の邦訳。畏敬を中心に「尊敬」「羞恥」「イロニー」など、他者とのあいだに距離があり、神聖なるもの究極なるものによって呼び覚まされる感情の意義を解明。

▼和田修二・皇紀夫・矢野智司編『ランゲフェルト教育学との対話―子どもの人間学への応答』（A5判・六五一〇円）「子どもであること」「おとならしさ」について新たな見方を提示し、今や古典となったランゲフェルトの教育思想を手がかりに、教育の現実や問題、教育学の課題の在処を重層的多次元的に指し示す。

▼矢内一好著『米国税務会計史―確定決算主義再検討の視点から』（三〇四五円）本書は米国税務会計史の検討を通じて、国際会計基準の動向を背景に、日本の確定決算主義と米国の税務会計と企業会計の分離型を対比して検討すると共に、米国における企業会計と税務会計の相互関連性についての影響を検証する。

## 中央大学出版部

▼塩見英治・中條誠一・田中素香編著『東アジアの地域協力と経済・通貨統合』（三九九〇円）東アジアの地域協力を多面的に分析し、壮大な夢である経済・通貨統合の課題について、日韓中の三方国の研究協力で探った好書である。地域統合に向けての三方国の関係の深化と制約・課題を知る上で必読の書である。

▼梅村坦・新免康編著『中央ユーラシアの文化と社会』（四三〇五円）中央ユーラシアの歴史、文化、社会状況に関する多様なテーマから、混迷する現在の世界を読み解く鍵を提供する。ユーラシア大陸周縁の諸文明との関係を、中央部から時間軸に沿って見通そうとする試みは、日本から見る大陸像をマルチ化する必要性を迫った書である。

▼梅村坦・新免康編著『中央ユーラシアの文化と社会』（四三〇五円）中央ユーラシアの歴史、文化、社会状況に関する多様なテーマから、混迷する現在の世界を読み解く鍵を提供する。ユーラシア大陸周縁の諸文明との関係を、中央部から時間軸に沿って見通そうとする試みは、日本から見る大陸像をマルチ化する必要性を迫った書である。

▼梅村坦・新免康編著『中央ユーラシアの文化と社会』（四三〇五円）中央ユーラシアの歴史、文化、社会状況に関する多様なテーマから、混迷する現在の世界を読み解く鍵を提供する。ユーラシア大陸周縁の諸文明との関係を、中央部から時間軸に沿って見通そうとする試みは、日本から見る大陸像をマルチ化する必要性を迫った書である。

## 東京大学出版会

▼『現代の階層社会』（全3巻、各巻五〇四〇円）

非正規雇用の増大、教育の不平等化、ネオリベラリズムの席捲など、現代社会に渦巻く格差・不平等問題を最先端の理論と統計で解明する必読のシリーズ。一九五五年から続く大規模プロジェクト「社会階層と社会移動全国調査」(SSM調査)の最新成果をもとに、日本の格差社会の現実を実証的に描き出す。

▼『1 格差と多様性』（佐藤嘉倫・尾嶋史章編、八月刊）は、丹念なデータ分析により多様化・複雑化する格差の諸相を解明し、日本社会の問題群とその根源を探究する。

▼『2 階層と移動の構造』（石田浩・近藤博之・中尾啓子編、九月刊）は、日本の階層構造の世代間継承性と変化の趨勢につき、東アジア間の国際比較を交えて論じる。

▼『3 流動化のなかの社会意識』（斎藤友里子・三隅一人編、七月刊）は、人々の階層意識、あるいは社会との関わりをめぐる意識に焦点を当て、現代の心性を浮き彫りにする。

## 東京電機大学出版局

▼J・シェフラー著『デジタルサイネージ入門』（A5・二九六頁・三二五〇円）

デジタルサイネージとは従来の印刷ポスターに代わって映像や情報を表示する新たな広告媒体（電子看板）である。駅や空港などに設置される大型ディスプレイだけでなく、中小店舗用の小型ディスプレイや、一般家庭向けのデジタルフォトフレーム、タブレットPC、スマートフォンなど用途がどんどん拡大している。本書ではデジタルサイネージの歴史、システム、トレンド、ビジネスチャンスなどについて解説した。

▼小林龍生著『ユニコード戦記』（四六・二五六頁・二八三五円）文字符号、特にユニコードがどのようにして作られてきたのかを当事者自身が当時の資料や議事録などをもとに振り返りながら、世界的なパトルの様子に焦点を当てて時間軸に沿って書きつづった読み物。世界の文字符号であるユニコードと日本やアジアの文字符号との整合性をとっていく過程や英語での苦労話まで告白した。国際標準化パトルの世界で本当に必要なこととは何かを教えてくれる一冊。

## 東京農業大学出版会

▼『横井時敬の遺産』友田清彦著・監修 横井時敬先生生誕一五〇年記念出版。

横井先生は東京農大初代学長。明治農学の祖。農民のためになる、実学を重んじる教育者。横井先生のモットー「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」「人物を畑に還す」、警句「農学栄えて農業亡ぶ」があるが、それらが連綿として、今日の東京農大に脈々と受け継がれている。横井先生の農業、農村、農民にかけた業績を振り返る。内外の農業をめぐる厳しい諸情勢のなかで、深淵な原点にもう一度振り返ってみるのもよいではないか。

平成二十三年三月／四六判／一三二頁／税込価格一六八〇円

▼『食農と環境 No.8』実践総合農学会編 地球上のあらゆるいのちの持続的繁栄を実現するとともに、その繁栄のシステムと地球環境の次世代への継承を学術的に推進するため、高度に複合された問題の解決に貢献できる基礎的な研究成果の創造と利活用等を展開する機関誌  
平成二十三年二月／A四判／一四六頁／税込価格八四〇円

## 東京農工大学出版会

▼「人が学ぶ イヌの知恵」林谷秀樹・渡辺元・佐藤俊幸・甲だ菜穂子・対馬美香子著（B5判・一六四頁・一四七〇円（税込み））

東京農工大学が知的資産を世の中に還元する目的で発行している「人が学ぶ」シリーズの第三弾。

イヌは、いまから四万年ほど前に、野生のオオカミを人間が飼い慣らして創りだしました。それ以来様々な育種を繰り返して、様々な犬種を生み出してきました。

本種では、こうしたイヌの生態や体の仕組み、行動に隠されているイヌの感情など意外と知られていないイヌの習性を平易に解説している。たとえば飼い主にしかかれていた時にあくびをするのは、飼い主をばかにしているのではなく、自分を落ち着かせようとする合図など、知っているとイヌとの関係を良好にするヒントになる。東



京農工大学の獣医学科の教授ら五人による共著。

## 法政大学出版局

▼J・ランシエール／梶田裕・堀谷子訳『無知な教師』（二八三五円）一九世紀のJ・ジャコトがめざした革命的教育の教えをモデルに、今日の「侮蔑社会」の泥沼から解放された人間を待望する。

▼A・ホネット／辰巳伸知・宮本真也訳『物象化』（二六二五円）公式にはルカーチの議論と立ち向かいながら、非公式には現代の社会的批判理論が支持すべきパラダイムについての再検討を行なう。

▼香月洋一郎『馬耕教師の旅』（三三六〇円）馬を使った耕起の導入と、その技術の指導に尽力した人たちがいた。耕耘機の登場とともに人びとの記憶から消えた、「耕す」ことの歴史を振り返る。

▼見市雅俊編著『近代イギリスを読む』（二九四〇円）驚異の〈国土〉を素描する。歴史のなかの虚構、文学のなかの事実——文学と歴史学の垣根を取り払い、新しい英国学の展望を切り拓く。

▼藤原帰一・永野善子編著『アメリカの影のもとで』（三三三〇円）歴史経緯としての占領統治。その共通性、異質性、相互作用……、アメリカを光源として日本とフィリピンを比較する画期的試み。

## 武蔵野大学出版会

— 仏教書特集 —

▼ケネス・タナカ著『アメリカ仏教— 仏教も変わる、アメリカも変わる』（二一〇〇円）アメリカに浸透する過程で変容した仏教、仏教の影響で変化したアメリカ。アメリカから仏教を見直す。公園の芝生での集団座禅風景など、写真多数。

▼田中教照編著『仏教最前線の課題』（二六二五円）生命、科学、共生など、仏教の現代的課題と今後の可能性をどこに見出すのか、という問題意識を共有する九人の仏教学者（田中教照、山崎龍明、陳継東、佐藤裕之、高橋審也、石上和敬、田中ケネス、西本照真、村石恵照）による論文集。

▼山崎龍明編著『いのちは誰のものか— 仏教思想に人間を問う』（一八九〇円）仏教主義に基づく教育論、ゴータマ・ブッダが説いた仏教の根本的な教え、親鸞の思想を、平明に解説する。

▼田中教照著『仏は叫んでいる』（二二一〇円）人生、家族、教育等を考える軸となる仏教思想について、原始仏典から歎異抄まで縦横に引きながらユーモラスに語った講演集。

## 武蔵野美術大学出版局

▼伊東毅著『未来の教師における特別活動論』（A5判・二五六頁・二二〇〇円）

ホームルーム、学級活動、生徒会活動、入学式、卒業式、運動会、文化祭、修学旅行、給食、これらの全てが小・中・高校の教育課程における「特別活動」である。この広範囲にわたる「特別活動」は、子どもたちの人格形成、社会性の発育などの面で大変重要な領域である。また「特別活動」では、担当する教員の裁量、器量が教科以上に大きく影響するとされ、それだけに、教師になつてから考えるのでは遅い、と筆者は力説する。

およそ六〇年ぶりの教育基本法の改正後、初の改訂が行われた現行の学習指導要領では、いわゆる「ゆとり教育」の見直しの方針が明らかとなった。この流れのなか、教科とは異なるが、子どもたちの成長に欠かせない領域を担う「特別活動」に、いま何が期待されているのか、詳細に考察する。巻末には資料として、過去の学習指導要領における、特別活動に関する項目を全て抜粋し掲載。  
教壇に立つことをめざし学ぶ全ての人に、いまこそぜひ読んでほしい一冊。

## 明星大学出版部

▼『教育委員会制度変容過程の政治力学』戦後初期教育委員会制度史の研究』樋口修資著

A5判上製・三〇〇頁・三三六〇円

占領下に制度化された教育委員会の意義と性格は独立回復後どのように変質したか。史料・国会記録等から丹念に考察。  
▼『実業学校から見た近代日本の青年の進路』井澤直也著

A5判上製・一七六頁・二六二五円

工業、商業、農業（蚕業）の実業学校の教育課程と卒業生の就業の軌跡を追究。  
▼『心の科学―基礎から学ぶ心理学』

林洋一監修 本多明生・大原貴弘編集

A5判・三三四頁・一九九五円

専門的な知識を身に付け、人間についての理解を深めることを目的とした入門書。  
▼『ここから始めよう 小学校英語―楽しい指導の第1歩』

渡邊時夫・佐藤令子・粕谷恭子著

B4判・一六四頁・一二六〇円

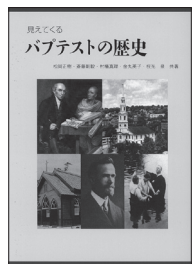
指導者のための英語教育法入門。長い実践から得られた授業のヒントがいっぱい。

▼『生徒指導―小学校―』味形修著

A5判・一六二頁・一三六五円

## 関東学院大学出版会

▼出村彰監修・バプテスト史教科書編纂委員会編『見えてくる バプテストの歴史』（二二〇五円）一七世紀、英国初期バプテスト派の誕生から、一九世紀までの発展、その後、米国でプロテスタント最大の教派にまで成長し、日本へも伝えられたバプテスト教会の教会史。



▼濱田柸子・帆苺猛・杉田正樹著『人間と倫理』（二二〇五円）世界は底が抜けたのか。何があってもおかしくない現代社会のなかで、倫理学には何ができるのか。本書は、倫理学、宗教学、哲学の立場から、この問題に正面から立ち向かう。





## 東海大学出版会

- ▼『戊辰戦争と東北の格差―「白河以北一山百文」を巡って』太田保世著・四六判・一六〇頁・定価一五七五円
- 「白河以北一山百文」を巡る東北考。
- ▼『自助共助公助の経済政策』岸真清他著・A5判・一八六頁・定価二九四〇円
- 日本の経済政策の今後のあり方を提言。
- ▼『ありうべき世界』へのパスベクトイブ』東海大学文明研究所編・四六判・三三六頁・二九四〇円
- 現代文明に対する批判的考察。
- ▼『フィールドの生物学⑤…共生細菌の世界―たたかて巧みな宿主操作』成田聡子著・B6判・二五六頁・定価二〇〇円
- 仁義なき共生細菌の世界を紹介する。
- ▼『ネイチャーツアー西表島』安間繁樹著・A5変判・二七六頁・定価三〇四五円
- ひと味違ったエッセイ風西表島ガイド。
- ▼『Inihnume①・イルカ・クジラ』村山司著・B6変判・九二頁・定価一二六〇円
- 新シリーズ。動物を学べるミニムム情報。
- ▼『大阪市立自然史博物館叢書⑤…日本鳥の巣図鑑』小海途銀次郎他著・A5判・四〇〇頁・定価二九四〇円
- 小海途氏の鳥の巣コレクションを公開。

## 名古屋大学出版会

- ▼『啓蒙の運命』富永茂樹編（七九八〇円）啓蒙の終焉か、深化か―。啓蒙の多面性・複数性に光をあけるとともに、その未来を洞察した白熱の共同論集。
- ▼『ポランティア』の誕生と終焉―贈与のパラドックスの知識社会学―仁平典宏著（六九三〇円）日本の参加型市民社会のあり方を鋭く問いなおす。
- ▼『日本のエネルギー革命―資源小国の近現代―』小堀聡著（七一四〇円）高度成長を可能にした資源制約への挑戦を描き出し、エネルギー革命の実像に迫る。
- ▼『大恐慌下の中国―市場・国家・世界経済―』城山智子著（六〇九〇円）大恐慌の中国への影響を初めて体系的に叙述。中国を世界経済史の中に位置づける。
- ▼『科学アカデミーと「有用な科学」―フロントネルの夢からコンドルセのユートピアへ―』隠岐さや香著（七七七〇円）科学活動は社会のなかで自らの位置をどのように獲得していったのか。
- ▼『よくわかる医療面接と模擬患者』鈴木富雄／阿部恵子編（一八九〇円）医療面接の基本知識と模擬患者の練習方法を第一線の執筆者がやさしく解説。

## 三重大学出版会

- ▼『西鶴のヒジネス指南―「日本永代蔵」の経済と経営』濱森太郎・國場弥生著・A5版・二四五頁・本体二四〇〇円
- 『日本永代蔵』の「経済」―ダイナミズム①マイクロ・ファイナンス（巻一ノ一）「初午は乗て来る仕合せ」／②産地直送（巻二ノ四）「天狗は家名の風車」／③イ・トレイダ（巻二ノ一）「世界の借家大将」／④リサイクル（三ノ三）「世は抜き取りの観音の眼」／⑤ニュービジネス（巻四の四）「茶の十徳も一度に皆」／⑥サブライ・チェーン（巻四ノ一）「祈る印の神の折敷」／⑦先端知（巻二ノ五）「舟人馬方鐘屋の庭」／⑧街興し（巻二ノ三）「才覚を笠に着る大黒」／⑨ブランド力（巻五ノ二）「世渡りは淀鯉のはたらき」／⑩恋風様参る（巻一ノ二）「二代目に破る扇の風」／⑪新装開店巻六ノ一「銀の生る木は門口の柵」／⑫転職（巻三ノ五）「紙子身代の破れ時」／⑬倒産処理―嫁力（巻一ノ五）「世は欲の入れ札に仕合せ」／⑭シンゲル・マザー（巻一ノ一）「波風静かに神通丸」／⑮終章

## 京都大学学術出版会

- ▼『ブリミエ・コレクシオン』刊行開始。初演を意味するフランス語に由来したシリースタイトルには、若い知性のデビュー作という意味が込められる。大学院重点化以降、新しい活況を呈した領域の最新作を刊行する。『中国の経済発展と制度変化』厳成男著（三九九〇円）、『問いとしてのスピリチュアリティ』林貴啓著（三三六〇円）、『語り合いのアイデンティティ心理学』大倉得史著（三九九〇円）、『デカルトの方法』松枝啓至著（三三六〇円）、等、今夏刊行。
- ▼『マルチ言語宣言』大木充・西山教行編（二一〇〇円）わが国の外国語教育には英語偏重の傾向があるが、このままでは世界文化が一樣にアメリカ化され、その多様性が失われてしまう。本書は、外国語教育を通じて多極的世界観について学ぶ重要性について再考する。
- ▼『総説 宇宙天気』柴田一成・上出洋介 編（六三〇〇円）気象衛星や通信衛星などを守り、過酷な宇宙に人類が進出していくためには、宇宙環境に生じる電磁気・プラズマ擾乱と呼ばれる激しい嵐の正確な予報が不可欠である。宇宙時代、天気予報も宇宙規模で。

## 大阪経済法科大学出版部

- ▼『未来を発信する八尾・環山楼市民塾2009』環山楼市民塾運営実行委員会編・一五七五円）
- 主要目次
- 特別寄稿 世界経済と日本経済を俯瞰するーオールド・ノーマルからニュー・ノーマルへー（本間正明）／第一章 文化遺産産学のためのしき（高橋隆博）／第二章 ごみ問題の経済評価とまちづくり（坂田裕輔）／第三章 ものづくりと産業組織論（箱田昌平）／第四章 国際的労働力移動（村下 博）／第五章 ITの進化と現代経営の基本問題（能塚正義）／第六章 日本における特許法の歴史のあらまし（岩村 等）／第七章 活性化する東北アジアの現状と将来の展望（藤本和貴夫）



## 大阪大学出版会

- ▼日比孝之『証明の探究』（A5・一八九〇円）共通教育シリーズ第一弾。旅の徒然に読むような趣で例題を提示し、数学の面白さ、美しさをエレガントに紹介。
- ▼大阪大学工学部／工学研究科事務部・編『大学を変えた人間力・プロジェクトCC』（A5・一五七五円・フルカラー）大学の教職協働の成功事例。
- ▼浜口智志、村上泉、加藤太治、プラズマ・核融合学会編『プラズマ原子分子過程ハンドブック』（B5・五四六〇円）基礎知識とそのデータベース、応用例。
- ▼塩谷茂樹、中嶋善輝著『モンゴル語』（A5・三三六〇円・CD付）キリル文字表記によるモンゴル語も同時に体系的に学べる初級・中級テキスト。
- ▼清水政明『ベトナム語』（A5・二六二五円・CD付）気づかひの表現に満ちるベトナム語。文字と発音、基礎文法、日常会話、練習問題。最適のテキスト。
- ▼那須正夫『セルフメデイケーションのためのくすりの話』（四六判・一一五五円）くすりの基本的な知識から、虫よけ、サブリ等との付き合い方など、くすりを生活と文化から紹介。



## 関西大学出版部

- ▼入子文子編著『英米文学と戦争の断層』（A5判・二七三〇円）現代における神話化された戦争を扱う文学について取り上げる。極限状況に置かれた登場人物が、いかに戦争と向き合うかを通じて、戦争と人間の関わりの本質の意味を問う。
- ▼河田悌一著『定点観測―中国哲学思想界の動向―』（A5判・二二〇〇円）中国とは何か？今こそ真剣に問わねばならない。本書は建国時からの中国の学術研究、特に哲学、思想史研究のあり方に焦点を絞り、追跡して、政治状況を測定する。
- ▼伊東 理著『イギリスの小売商業 政策・開発・都市―地理学からのアプローチ―』（A5判・三一五〇円）イギリスの小売商業政策と都市商業について、地理学から多面的に考察した専門書。現代イギリス都市の小売商業の実態と小売商業問題について考察。
- ▼亀井克之著『リスクマネジメントの基礎理論と事例』（A5判・一九九五円）本書は、経営学的なアプローチから、リスクマネジメントのごく基本的な考え方をまとめた総論書である。基礎的な概念を整理し、様々な事例を提示している。

## 関西学院大学出版会

- ▼井上尚之著『環境学―歴史・技術・マネジメント』（A5並製・二四〇頁・定価二二〇五円）
- ▼関西学院大学社会学部発行『関西学院大学社会学部の50年―写真と回想で綴る半世紀の歩み』（A4並製・一一八頁・定価二二〇〇円）
- ▼加藤和孝著『福は外―ジュール・ロマンの幸福論』（四六上製・二五六頁・定価三九九〇円）
- ▼玉越勢治・三田村仰・野田航・前田志壽代著『K. G. りぶれつとNo.28』最先端の心理学―基礎研究と応用実践』（A5並製・九〇頁・定価八四〇円）
- ▼関西学院大学産業研究所75年史編集委員会著『関西学院大学産業研究所75年の歩み』（A5上製・二六〇頁・定価四二〇〇円）
- ▼杉浦司著『情報セキュリティマネジメント―経営品質の保証と企業価値の防衛』（A5並製・二三〇頁・定価二一〇〇円）
- ▼小西尚美編『グローバル社会の国際政策―関学大総合政策学部教育研究叢書2』（A5並製・二二八頁・定価三三〇円）

## 九州大学出版会

- ▼高藤冬武訳『パンジャマン・コンスタン日記』（A5判・九八七〇円）恋愛心理分析小説の最高傑作『アドルフ』の作者にして、フランス革命後の激動期を生き抜いた政治家による、フランス文学史上最も赤裸な私的日記、待望の本邦初訳。年譜・家系図・関連地図も収録。
- ▼圓入智仁『海洋少年団の組織と活動―戦前の社会教育実践史―』（A5判・四八三〇円）海軍や少年団の史料を検討し、海洋少年団を設立した人物とその動機、活動の方法論、子どもが学んだ技術など、組織の全体像と実際の活動を解明する。
- ▼大塚久哲編著『地震防災学―検索情報に基づいた地震防災の基礎知識―』（B5判・二七三〇円）過去の被害調査、発生日震の予測、被害想定、危機管理、防災対策、地震に強い地域・街づくり、事業継続計画、復旧事業など地震防災に関する広汎な内容を一冊にまとめた書。



# 一般社団法人 大学出版部協会賛助会員

【50音順】2011年7月1日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2
垂細垂印刷株式会社	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7F
城島印刷株式会社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社京都学術振興会	〒605-0009	京都府京都市東山区大橋町88-1 辻野ビル2F-A
株式会社クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社桑川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工藝株式会社	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0012	東京都港区芝大門1-3-4 ダイニックビル7F
株式会社太洋社	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 6F
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京弘報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11
株式会社トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-9-5
萩原印刷株式会社	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 6F
株式会社平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7
ベル製本株式会社	〒112-0014	東京都文京区関口1-17-5
宗教法人法界寺	〒287-0003	千葉県香取市佐原イ-1057
株式会社堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1
株式会社遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243	東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042	東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

## ●広告掲載出版社一覧 (掲載順)

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
みずず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
未來社	〒112-0002	東京都文京区小石川3-7-2
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
新曜社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町2-10
刀水書房	〒101-0065	東京都千代田区西神田2-4-1



英文校閲



和英翻訳



組版・印刷

# 英文学術書の執筆・出版 サポートはお任せ下さい！

## カクタスのここが強み

### アカデミックに特化した豊富な経験と実績

カクタスは、これまで全世界で2万人以上の研究者、日本においては600以上の大学様に英文校正を中心とする執筆サポートを提供してきた実績があります。

### 翻訳～校正～組版～印刷まで、英文出版のためのトータルサポート

原稿を頂いてから印刷物（書籍、パンフレット等）制作までの全工程をサポート。複数業者との煩雑な調整がなく、制作期間中も日々の業務に最大限注力することができます。

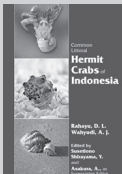
### 専門分野の英語エキスパートによる作業チーム

国際的なアカデミック舞台上で通用する出版物の作成には、各分野の知識を持つ英語のプロによる英文校正・英文組版が不可欠です。複数の研究領域に特化した校閲・翻訳スタッフが多数在籍しています。

#### 制作物一例

- 印刷物  
書籍、報告書、論文集、  
紀要、ジャーナル、パンフ  
レット、チラシ、記念誌
- 電子メディア  
電子ジャーナル、  
ウェブサイト

#### 実例



京都大学学術出版会様

日本物理学会様

# CACTUS

日本の「国際化」を応援します

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

〒100-0005東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル7階

[www.cactus.co.jp](http://www.cactus.co.jp) | Tel: 03-6269-9550 | Fax: 03-4496-4557

※ホームページ内お問い合わせフォーム又はお電話にてお問い合わせ下さい。

一般社団法人

大学出版部協会

加盟出版部一覧

北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1  
弘前大学附属図書館内  
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市府畑120  
TEL: 0297-64-0001 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1  
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1  
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

ケンブリッジ大学出版局

〒140-0002 品川区東品川1-32-5  
TEL: 03-5479-7265 FAX: 03-5479-8277

産業能率大学出版部

〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12  
サビアタワー9階  
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局

〒214-0033 川崎市多摩区東三田2-1-2  
専修大学購買会別館2階  
TEL: 044-911-7179 FAX: 044-911-1382

大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1  
TEL: 03-5394-3026 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学構内  
TEL: 03-3811-8814 FAX: 03-3812-6958

東京電機大学出版局

〒101-8457 千代田区神田錦町2-2  
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1  
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

東京農工大学出版会

〒183-8509 府中市幸町3-5-8 東京農工大学内  
TEL: 0423-67-6700 FAX: 0423-67-6700

法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-7  
法政大学一口坂校区内  
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野大学構内  
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL: 045-786-7164 FAX: 045-786-9898

東海大学出版会

〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35  
東海大学同窓会館3階  
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内  
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577  
三重大学図書館3階  
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京大吉田南構内  
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL: 072-941-8211 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

九州大学出版会

〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内  
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172

NESE  
RSITY  
SSES

87  
1.8  
MER

大学出版87号（2011年夏）

2011年8月1日発行

頒価100円（〒共）

発行所：

一般社団法人大学出版部協会

ISSN 0913-3305

振替00170-8-389131

〒102-0073

東京都千代田区九段北

1丁目14番13号

メゾン萬六403号室

TEL: 03-3511-2091

E-MAIL: mail@ajup-nct.com

URL: http://www.ajup-nct.com/

—  
使用書体：

游明朝体 Std, M, D

Garamond Premier Pro,

Medium Subhead, Regular

使用紙：

紀州の色上質 特厚口 鶯

—  
表紙デザイン：

白井敬尚形成事務所